

IBM® WebSphere® Commerce
for IBM eServer iSeries 400



インストール・ガイド

バージョン 5.4

IBM® WebSphere® Commerce
for IBM eServer iSeries 400



インストール・ガイド

バージョン 5.4

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、101 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り、IBM® WebSphere Commerce for IBM @server iSeries 400® バージョン 5.4 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典:	IBM WebSphere Commerce for IBM @server iSeries 400 Installation Guide Version 5.4
発行:	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当:	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

目次

WebSphere Commerce へようこそ	v
本書の表記規則	v
デフォルトのインストール・パス	vi
WebSphere Commerce に付属する製品	vi
サポートされている Web ブラウザー	vii
WebSphere Commerce で使用されるポート番号	vii
WebSphere Commerce で使用されるロケール	ix
ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの 早見表	ix

第 1 部 WebSphere Commerce 5.4 のインストール 1

第 1 章 インストール前の要件	3
知識に関する要件	3
前提条件となるハードウェア	3
前提条件となるソフトウェア	4
iSeries ユーザー・プロファイルの作成	5

第 2 章 管理用タスク	7
構成マネージャー・パスワードの変更	7

第 3 章 iSeries 固有の概念の理解	9
WebSphere Commerce によって使用される OS/400 フ ァイル・システム	9
QSYS.LIB ファイル・システム	9
ルート・ファイル・システム	11
データベースのレイアウトの照会	11

第 4 章 IBM WebSphere Commerce の インストール	13
IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2	13
Payment Manager のインストール前に	13
Payment Manager のインストール	13
WCSRealm を使用可能にする	14
Payment Manager カセットのインストール	15
WebSphere Application Server 4.0 のインストール	16
WebSphere Commerce のインストール	20

第 2 部 WebSphere Commerce 5.4 の構成作業 23

第 5 章 構成前のステップ	25
リモート・インスタンスの構成	25
WebSphere Application Server の開始	25
次のステップ	26

第 6 章 構成マネージャーによるインスタ ンスの作成または変更	27
---	-----------

この章のチェックリスト	27
構成マネージャーの起動	27
インスタンス作成ウィザード	30
インスタンス	30
データベース	30
言語	31
Web サーバー	31
WebSphere™	32
Payment Manager	33
ログ・システム	35
メッセージング	35
オークション	36
インスタンス作成の開始	36
リモート・データベースの構成の完了	37
インスタンスの開始と停止	37
構成の追加オプション	38
インスタンス・プロパティ	38
コンポーネント	48
保護パラメーター	48
レジストリー	48
オークション	49
外部サーバー・リスト	49
Commerce アクセラレーター	49
ログ・システム	50
キャッシング・サブシステム	50
ストア・サービス構成	50
トランスポート	51
次のステップ	51

第 7 章 クイック構成コマンドを使用した インスタンスの作成	53
前提事項および制約事項	53
クイック構成コマンドの起動	54

第 8 章 構成後のステップ	57
JavaServer™ Pages ファイルのコンパイル	57
セッションから独立したキャッシュの使用可能化	58
時間帯の設定	58
次のステップ	58

第 3 部 拡張構成オプション 61

第 9 章 IBM HTTP Server で SSL を使 用可能にする	63
Payment Manager での SSL の使用	63

第 10 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成	65
仮想ホスト名を使用する複数インスタンス	65
前提条件	66

複数インスタンスの作成	66
インスタンスの開始	67

第 11 章 WebSphere Application Server のセキュリティーを使用可能にする	69
始める前に	69
LDAP ユーザー・レジストリーを使用してセキュリティーを使用可能にする	69
オペレーティング・システム・ユーザー・レジストリーを使用してセキュリティーを使用可能にする	71
WebSphere Commerce EJB セキュリティーを使用不可にする	72
WebSphere Commerce セキュリティー・デプロイメント・オプション	73

第 4 部 付録 75

付録 A. コンポーネントの開始および停止 77	
WebSphere Commerce インスタンスの開始	77
セキュア環境での STRWCSSVR および ENDWCSSVR の使用	79
WebSphere Commerce インスタンスの停止	80
IBM HTTP Server の開始および停止	80
IBM HTTP Server インスタンスの開始	80
IBM HTTP Web サーバー・インスタンスの停止	82
IBM HTTP administrator の開始および停止	83
Payment Manager の開始および停止	84
Payment Manager Engine の開始	84
Payment Manager ユーザー・インターフェースのアクセス	85
Payment Manager の停止	85

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール	87
--	-----------

WebSphere Commerce のアンインストール	87
Payment Manager のアンインストール	87
WebSphere Commerce とそのコンポーネントの再インストール	87

付録 C. WebSphere Commerce インスタンスの削除	89
Payment Manager インスタンスの削除	91

付録 D. トラブルシューティング	93
ダウンロード可能なツール	93
WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker	93
ログ・ファイル	93
トラブルシューティング	94

付録 E. 詳細情報の入手方法	95
WebSphere Commerce 情報	95
オンライン・ヘルプの使用	95
印刷可能な文書の調べ方	95
WebSphere Commerce Web サイトの閲覧	95
IBM HTTP Server 情報	96
Payment Manager 情報	96
WebSphere Application Server	97
DB2 Universal Database 情報	97
その他の IBM 資料	97

付録 F. プログラム仕様と所定稼働環境 99

特記事項	101
商標	103
索引	105

WebSphere Commerce へようこそ

本書は、WebSphere Commerce 5.4 for IBM @server iSeries 400 のインストールおよび構成方法について説明しています。対象となる読者は、システム管理者など、インストール作業と構成作業を実行する人です。

WebSphere Commerce Suite バージョン 5.1 がすでにインストールされている場合、*WebSphere Commerce* *マイグレーション・ガイド* に説明されているマイグレーションのステップに従ってください。この資料は、WebSphere Commerce Web ページの『Technical Libraries』セクションで入手できます。

最終的な製品に対する変更について知るために、WebSphere Commerce Disk 1 CD のルート・ディレクトリーにある README ファイルを参照してください。さらに、このマニュアルのコピーおよび更新版は、以下の WebSphere Commerce Web サイトの Library → Technical Library セクションから PDF ファイルの形式で入手できます。

- Business Edition:

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html

- Professional Edition:

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html

本書の表記規則

本書では以下の強調表示規則を使用します。

- **太文字**は、コマンドまたは、フィールド名、アイコン、メニュー選択などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) コントロールを示します。
- **モノスペース (Monospace)** は、示されているとおりに入力するテキスト例、ファイル名、ディレクトリー・パスおよび名前を示します。
- **イタリック** は、語を強調するために使用します。イタリックは、ご使用のシステムの該当する値に置換しなければならない名前も示します。以下の名前が出てきたら、説明するとおりに、ご使用のシステムの値に置換してください。

host_name

WebSphere Commerce Web サーバーの完全修飾ホスト名 (たとえば、`server1.torolab.ibm.com` という完全修飾名)。

instance_name

作業対象の WebSphere Commerce インスタンスの名前。



このアイコンは、ヒント (作業を完了するために役立つ追加情報) を表すマークです。

重要

このセクションは、特に重要な情報を強調しています。

警告

このセクションは、データを保護するために意図された情報を強調しています。

デフォルトのインストール・パス

このマニュアルでインストール・パスについて述べられている場合、デフォルトのパス名として次のものを使用します。

/QIBM/ProdData/WebCommerce

WebSphere Commerce のインストール・パス

重要: このパスは変更しないでください。異なるパスを使用する場合、WebSphere Commerce は作動しません。

/QIBM/ProdData/WebAsAdv4

WebSphere Application Server 4.0 のインストール・パス

/QIBM/ProdData/Java400/jdk13

IBM Developer's Kit for iSeries 400、Java Technology Edition 1.3 のインストール・パス

/QIBM/ProdData/PymSvr

IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール・パス

注: デフォルト・ディレクトリーでは、WebSphere Commerce だけがサポートされています。

WebSphere Commerce に付属する製品

WebSphere Commerce には以下の製品がパッケージされています。

- WebSphere Commerce コンポーネント
 - WebSphere Commerce Server
 - WebSphere Commerce Accelerator
 - WebSphere Catalog Manager
 - WebSphere Commerce 管理コンソール
 - 商品アドバイザー
 - Blaze Rules Server および Blaze Innovator Runtime
 - Macromedia LikeMinds クライアント
- WebSphere Application Server 4.0
- IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2。これには、以下のものが含まれます。

- Payment Manager SET Cassette 3.1.2
- Payment Manager Cassette for CyberCash 3.1.2
- Payment Manager Cassette for VisaNet 3.1.2
- Payment Manager Cassette for BankServACH 3.1.2
- IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.4
- Brio Broadcast Server 6.2
- IBM SecureWay Directory Server 3.2.1
- Segue SilkPreview 1.0™
- WebSphere Commerce 5.4 Recommendation Engine powered by LikeMinds™
- QuickPlace 2.9.8
- Sametime 2.5

サポートされている Web ブラウザー

WebSphere Commerce のツールとオンライン・ヘルプには、WebSphere Commerce のマシンと同じネットワーク上にある Windows® オペレーティング・システムを実行中のマシンにおいて、Microsoft® Internet Explorer 5.5 を使用してのみアクセスできます。Internet Explorer は、5.50.4522.1800 のフル・バージョンのもの (Internet Explorer 5.5 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) で、Microsoft 社による最新の重要なセキュリティ上の更新がなされているものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールが完全にはサポートされていません。

ショッパーは、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用して Web サイトにアクセスできます。これらは、すべて WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Netscape Communicator 4.6 以降でサポートされている Netscape Navigator のすべてのバージョン (Netscape Navigator 4.04 および 4.5 を含む)
- Macintosh 用の Netscape Navigator 3.0 および 4.0、またはそれ以降
- Microsoft Internet Explorer 4 および 5 またはそれ以降
- AOL 5 および 6、またはそれ以降

WebSphere Commerce で使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。WebSphere Commerce 以外のアプリケーションでは、これらのポートを使用しないようにしてください。システムにファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

ポート番号 使用するソフトウェア

80	IBM HTTP Server 非セキュア Web サーバー
389	Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) Directory Server
443	IBM HTTP Server セキュア Web サーバー
900	WebSphere Application Server ブートストラップ。「デフォルト」以

外の WAS インスタンスを使用する場合、これは CRTNEWINST コマンドのブートストラップ・パラメーターに指定した番号になります。

- 1099** WebSphere Commerce 構成マネージャー
- 2222** 非ルート・ユーザーとして WebSphere Application Server 管理コンソールにアクセスするために使用するデフォルト・ポート
- 8000** WebSphere Commerce Tools。このセキュア・ポートは SSL が必要です。
- 8080** WebSphere Test Environment for VisualAge® for Java™
- 8999** Payment Manager インスタンス用の IBM HTTP Server 非セキュア Web サーバー。ただし、Payment Manager インスタンスのホスト名が WebSphere Commerce インスタンスと同じで、Payment Manager セキュア Web サーバー・ポートがデフォルトの 443 でない場合。
- 9000** WebSphere Application Server Location Server。「デフォルト」以外の WebSphere Application Server インスタンスを使用する場合、これは、CRTNEWINST コマンドの最初のパラメーターに指定した番号になります。
- 16900** IBM HTTP Server 用に予約された、ダミーの非 SSL ポート番号。
- 16999** WebSphere Commerce Cache Daemon (デフォルト)
- 22802** WebSphere Application Server トランスポート・ポート (デフォルト)。これは、WebSphere Application Server サブレット・エンジンが Web サーバーと通信を行うポートです。競合を避けるために、特定のマシン上の各アプリケーション・サーバー・インスタンスごとに固有のポート番号を指定する必要があります。このポート番号を変更するには、以下のようにしてから、WebSphere Application Server 管理コンソールでプラグイン構成を再生成します。
1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
 2. 「**Administrative Domain (管理可能ドメイン)**」を拡張表示します。
 3. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
 4. 「*host_name*」を拡張表示します。
 5. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
 6. ご使用のアプリケーション・サーバー *instance name* - WebSphere Commerce Server を選択します。
 7. 「サービス」タブをクリックします。
 8. 「**Web コンテナ・サービス**」を選択します。
 9. 「**Edit Properties (プロパティの編集)**」をクリックします。
 10. 「トランスポート」タブをクリックします。

11. 「HTTP Transport (HTTP トランスポート)」を選択して、「編集」を選択します。
12. 「Transport Port (トランスポート・ポート)」フィールドに、固有のポート番号を入力します。
13. 「OK」をクリックします。
14. 「OK」をクリックします。
15. 「適用」をクリックします。

WebSphere Commerce で使用されるロケール

WebSphere Commerce では、有効な Java のロケールだけが使用されます。使用する言語に該当するロケールがシステムにインストールされていることを確認してください。また、ロケールに関係するすべての環境変数には、WebSphere Commerce でサポートされているロケールを含めるようにしてください。WebSphere Commerce でサポートされているロケールのコードは、以下の表に示すとおりです。

言語	ロケール・コード
ドイツ語	de_DE
英語	en_US
スペイン語	es_ES
フランス語	fr_FR
イタリア語	it_IT
日本語	ja_JP
韓国語	ko_KR
ポルトガル語 (ブラジル)	pt_BR
中国語 (簡体字)	zh_CN
中国語 (繁体字)	zh_TW

ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表

WebSphere Commerce 環境での管理には、さまざまなユーザー ID が必要です。これらのユーザー ID と、それに必要な権限のリストを、次の表に示します。WebSphere Commerce のユーザー ID に対して、デフォルトのパスワードが識別されます。

iSeries ユーザー・プロファイル

WebSphere Commerce をインストールして構成するとき、以下の 2 つの iSeries ユーザー・プロファイルが頻繁に使用および参照されます。

- WebSphere Commerce をインストールし、構成マネージャーにアクセスするために作成および使用するユーザー・プロファイル。WebSphere Commerce をインストールして構成するためには、USRCLS(*SECOFR) の iSeries ユーザー・プロファイルを使用するか、または QSECOFR ユーザー・プロファイルを使用する必要があります。ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合は、5 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照してください。

- WebSphere Commerce のインスタンスを作成する時点で構成マネージャーによって作成されるユーザー・プロファイル。このユーザー・プロファイルは「インスタンス・ユーザー・プロファイル」とも呼ばれます。WebSphere Commerce のインスタンスを作成するたびに、構成マネージャーによって USRCLS(*USER) のユーザー・プロファイルが作成されます。ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合は、5 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照してください。

構成マネージャーのユーザー ID

構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すれば、WebSphere Commerce の構成方法を変更できます。構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。構成マネージャーには、Microsoft Internet Explorer 5.5 をサポートし、WebSphere Commerce マシンと同じネットワーク上にある任意のマシンからアクセスできます。

WebSphere Commerce インスタンス管理者

インスタンス管理者のユーザー ID とパスワードを以下の WebSphere Commerce ツールに適用します。

- WebSphere Commerce Accelerator。Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce Accelerator にアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーをオープンしてから、以下の Web アドレスを入力します。

`https://host_name:8000/accelerator`

- WebSphere Commerce 管理コンソール。Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーをオープンしてから、以下の Web アドレスを入力します。

`https://host_name:8000/adminconsole`

- ストア・サービス。「ストア・サービス」ページには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。

`https://host_name:8000/storeservices`

- 組織管理コンソール。組織管理コンソールには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。

`https://host_name/orgadminconsole`

インスタンス管理者のデフォルト・ユーザー ID は wcsadmin で、デフォルト・パスワードは wcsadmin です。

注: wcsadmin ユーザー ID は、決して削除しないようにしてください。また、それには常にインスタンス管理者の権限が付与されていなければなりません。

WebSphere Commerce では、ユーザー ID とパスワードが以下の規則に従う必要があります。

- パスワードの長さは少なくとも 8 文字でなければならない。
- パスワードには少なくとも 1 つの数値を含めなければならない。

- パスワードでは文字を 5 つ以上使用しない。
- パスワードでは同じ文字を 4 回以上繰り返さない。

Payment Manager 管理者

Payment Manager をインストールすると、WebSphere Commerce 管理者 ID wcsadmin に Payment Manager 管理者役割が自動的に割り当てられます。Payment Manager の Realm Class を WCSRealm にまだ切り替えていない場合、これを行うには、13 ページの『Payment Manager のインストール』の指示に従ってください。

Payment Manager 管理者役割が割り当てられているユーザー ID では、Payment Manager の制御と管理が可能です。

注:

1. ログオン・ユーザー ID wcsadmin は削除したり名前を変更したりしないでください。また、wcsadmin に事前に割り当てられている Payment Manager の役割は変更しないようにしてください。もし変更すると、Payment Manager の整合性に関連した WebSphere Commerce の機能が動作しなくなります。
2. WebSphere Commerce の管理者に Payment Manager の役割を割り当てた場合、後でその管理者のログオン・ユーザー ID を削除したり名前を変更したりするときには、ユーザー ID を削除または名前変更する前に、まずその管理者に割り当てた Payment Manager の役割を削除してください。

重要

Payment Manager は、Payment Manager 管理者の役割を、以下の 2 つの管理 ID に事前に割り当てます。

- nadmin
- admin

あるユーザーが誤ってその Payment Manager 管理者役割を取得することがないようにするには、以下のことを実行できます。

1. WebSphere Commerce 管理コンソールを使用して、WebSphere Commerce の中で上記の管理 ID を作成します。
2. Payment Manager のユーザー・インターフェースで、「ユーザー」を選択します。
3. 2 つの管理者 ID から Payment Manager 管理者の役割を削除します。

また、Payment Manager インスタンス・パスワードを知っておく必要があります。これは、Payment Manager インスタンスの開始、停止、または削除に必要となります。Payment Manager インスタンスにカセットを追加する必要もあります。Payment Manager インスタンスが WebSphere Commerce 構成マネージャーによって作成される場合、Payment Manager インスタンス・パスワードは WebSphere Commerce インスタンス・ログオン・パスワードと同じになります。これはインスタンス・ユーザー・プロファイル・パスワードとも呼ばれます。Payment Manager インスタンスが **CRTPYMMGR** コマンドを使って iSeries セッションから作成される場合、または iSeries の「Task Page (タスク・ページ)」から作成される場合、パスワードを入力するように指示されます。

第 1 部 WebSphere Commerce 5.4 のインストール

このセクションでは、次のようなトピックを記載しています。

- 3 ページの『第 1 章 インストール前の要件』
- 7 ページの『第 2 章 管理用タスク』
- 9 ページの『第 3 章 iSeries 固有の概念の理解』
- 13 ページの『第 4 章 IBM WebSphere Commerce のインストール』

WebSphere Commerce を正常にインストールするには、これらのトピックを完了する必要があります。

重要

本書では、以前のバージョンの WebSphere Commerce がインストールされていないマシンに WebSphere Commerce をインストールする方法を説明します。WebSphere Commerce Suite バージョン 5.1 がインストールされており、WebSphere Commerce 5.4 にアップグレードする場合は、*WebSphere Commerce* *マイグレーション・ガイド* の指示に従ってください。この資料は、IBM Web サイトから入手できます。その Web アドレスは以下のとおりです。

▶ Business

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html

▶ Professional

http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html

第 1 章 インストール前の要件

この章では、WebSphere Commerce をインストールする前に行う必要のあるステップについて説明します。

知識に関する要件

WebSphere Commerce をインストールおよび構成するには、以下のことに関する知識が必要です。

- 使用するオペレーティング・システム
- インターネット
- Web サーバーの運用と保守
- IBM DB2[®] for iSeries
- オペレーティング・システムの基本的なコマンド

ストアまたはモールを作成しカスタマイズするには、以下のことに関する知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- IBM DB2 for iSeries
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java のプログラミング

ストアまたはモールをカスタマイズする方法の詳細については、*WebSphere Commerce プログラマーズ・ガイド* を参照してください。WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Studio には、いずれもこれらのマニュアルのコピーが付属しています。

前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce 5.4 をインストールする前に、以下の最低のハードウェア要件を満たしていることを確認しておかなければなりません。

- 以下のサーバーのいずれか (推奨最低限)。
 - AS/400e Server 170 型、プロセッサ・フィーチャー 2385
 - AS/400e Server 720 型、プロセッサ・フィーチャー 2062
 - iSeries Server 270 型、プロセッサ・フィーチャー 2252
 - iSeries Server 820 型、プロセッサ・フィーチャー 2396
- 1 GB のメモリー (それ以上を推奨)

注: サポートされるユーザーの数が限定されていて、サーバー初期化時間が長くても問題ない環境では、これらの最低要件を満たさないシステムであっても使用できます。

さらに、以下のものがが必要です。

- Windows オペレーティング・システムが実行されている Pentium[®] プロセッサーなどのワークステーションで、グラフィックス表示可能モニターで Web ブラウザー (たとえば Internet Explorer) を実行できるもの
- マウスあるいはその他のポインティング・デバイス
- TCP/IP プロトコルがサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター

前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低のソフトウェア要件を満たしていることを確認しておかなければなりません。

- IBM OS/400[®]、V5R1 以上で、以下のソフトウェアが含まれているもの。
 - DB2[®] for iSeries、V5R1
 - IBM HTTP Server for iSeries (5722-DG1)
 - Digital Certificate Manager (5722-SS1 オプション 34)
 - QShell インタープリター (5722-SS1 オプション 30)
 - Crypto Access Provider for iSeries (5722-AC3 (128 ビット))
- Java[®] Developer Kit 1.3.1 (JDK[®]) (5722-JV1 オプション 5)
- AS/400[®] Toolbox for Java (5722-JC1)
- TCP/IP Connectivity Utilities for OS/400、V5R1 (5722-TC1)
- DB2 Query Manager および SQL 開発キット (5722-ST1)

以下の製品は、オプションです。

- 以下のいずれか。
 - Client Access Windows family Base (5722-XW1)
 - Client Access Express for Windows (5722-XE1)
 - Client Access Optimized for Windows (5722-XD1)
- LDAP ディレクトリー・サービス (5722-SS1 オプション 32)

重要

上記の製品には、WebSphere Commerce Web サイトに示されている最新の PTF も必要です。使用する製品のバージョンに応じて、以下のアドレス (1 行) のいずれかを参照してください。

▶ Professional

www.software.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-techgeneral.html

▶ Business

www.software.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-techgeneral.html

最新の PTF は、最新の累積パッケージ、修正パック、グループ PTF を適用することによって、または PTF を直接 iSeries サービス技術員に注文することによって入手できます。

iSeries ユーザー・プロファイルの作成

WebSphere Commerce をインストールする前に、QSECOFR ユーザー・プロファイルまたは USRCLS(*SECOFR) の iSeries ユーザー・プロファイルがアクセス可能であることを確認してください。

iSeries ユーザー・プロファイルを作成する必要がある場合は、OS/400 コマンド行か、または Client Access を使用してください。コマンド行を使ってユーザー・プロファイルを作成する場合は、以下のようにします。

1. CRTUSRPRF を入力します。
2. プロンプトに対して PF4 キーを押します。
3. 必要なパラメーターの値を指定してから Enter キーを押すと、ユーザー・プロファイルが作成されます。

Client Access を使ってユーザー・プロファイルを作成する場合は、以下のようにします。

1. ナビゲーション・ツリーの中で、新しいユーザーを作成する iSeries サーバーをダブルクリックします。
2. 「**Users and Groups (ユーザーとグループ)**」をダブルクリックします。
3. 「**All Users (全ユーザー)**」をクリックします。右側のパネルに、iSeries 上のすべてのユーザーのリストが表示されます。
4. 「**All Users (全ユーザー)**」を右マウス・ボタン・クリックしてから、「**新規ユーザー**」を選択します。「新規ユーザー」ウィンドウが表示されます。
5. 必要な情報を入力してから Enter キーを押すと、ユーザー・プロファイルが作成されます。

iSeries ユーザー・プロファイルは、以下の地域設定で作成する必要があります。

表 1.

言語	CCSID	LangID	CountryID
英語	37	ENU	US

表 1. (続き)

言語	CCSID	LangID	CountryID
フランス語	297	FRA	FR
ドイツ語	273	DEU	DE
イタリア語	280	ITA	IT
スペイン語	284	ESP	ES
ポルトガル語 (ブラジル)	37	PTB	BR
日本語	5035	JPN	JP
韓国語	933	KOR	KR
中国語 (繁体字)	937	CHT	TW
中国語 (簡体字)	935	CHS	CN

上記以外の iSeries ユーザー・プロファイルを使用しても作業はできますが、テストされているわけではありません。

第 2 章 管理用タスク

この章では、WebSphere Commerce のインストールや保守の際に管理ユーザーが実行しなければならないことがあるタスクについて説明します。

構成マネージャー・パスワードの変更

構成マネージャー・パスワードを変更するには、構成マネージャーを立ち上げてから、ユーザー ID とパスワードを入力するウィンドウで「変更」をクリックします。

第 3 章 iSeries 固有の概念の理解

この章では、IBM @server iSeries 400 および OS/400 オペレーティング・システムに固有の概念について説明します。以下のような内容です。

- 統合ファイル・システム (IFS) 内のさまざまなファイル・システムの説明
- WebSphere Commerce システムのファイル編成

WebSphere Commerce によって使用される OS/400 ファイル・システム

Web 資産 (JSP および HTML ファイルなど) の保管場所や、対応するファイル・サーバーの構成方法を決定できるように、統合ファイル・システム (IFS) を理解することは重要です。

ファイル・システムは、LU として編成されているストレージの特定のセグメントにアクセスすることをサポートします。これらの LU は、ファイル、ディレクトリ、フォルダー、ライブラリー、およびオブジェクトです。

それぞれのファイル・システムには、ストレージ内の情報と対話するための論理構造とルールセットがあります。それらの構造とルールはファイル・システムごとに異なる場合があります。構造とルールの観点では、ライブラリーを介してデータベース・ファイルおよびその他の各種のオブジェクト・タイプにアクセスするための OS/400 サポートは、1 つのファイル・システムと見なすことができます。同様に、フォルダー構造を介して文書 (実際にはストリーム・ファイル) にアクセスするための OS/400 サポートは、別個のファイル・システムとして動作します。

統合ファイル・システムは、ライブラリー・サポートおよびフォルダー・サポートを別個のファイル・システムとして扱います。その他のタイプの OS/400 ファイル管理サポートは独自の機能をすべて備えており、別個のファイル・システムとして機能します。WebSphere Commerce によって使用される iSeries ファイル・システムを以下に説明します。その他の OS/400 ファイル・システムについては、OS/400 の資料を参照してください。

WebSphere Commerce は統合ファイル・システム内の 2 つの異なるファイル・システムに情報を保管します。それは、*QSYS.LIB* ライブラリー・ファイル・システムとルート・ファイル・システムです。

QSYS.LIB ファイル・システム

QSYS.LIB ライブラリー・ファイル・システムは、iSeries ライブラリー構造をサポートします。このファイル・システムはデータベース・ファイル、およびライブラリー・サポートが管理するその他のすべての iSeries オブジェクトへのアクセスを提供します。

インストールおよび構成プロセスにより、QSYS.LIB ファイル・システム内に QWEBCOMM ライブラリーが作成されます。これには、以下のタイプのオブジェクトが入っています。

*PGM
*SRVPGM
*MSGF
*FILE - QYWCTXTSRC (Contains the README)
*CMD
*PNLGRP
*PRDDFN
*PRDL0D

ルート・ファイル・システム

ルートまたは / ファイル・システムは、統合ファイル・システムの階層ディレクトリー構造およびストリーム・ファイル・サポートを最大限に活用します。ルート・ファイル・システムには、DOS および OS/2[®] ファイル・システムの特徴があります。

WebSphere Commerce は分割ルート・ファイル構造を使用します。WebSphere Commerce が使用するデータで、ユーザーが変更できるものや構成する必要のあるものはすべて、UserData サブディレクトリーに置かれます。また、すべての WebSphere Commerce プロプラエタリー・データは ProdData サブディレクトリーに置かれます。これは、2 つのタイプの情報の区別を明らかにするために行われています。これにより、将来のマイグレーションができる限り単純化される、ファイルのサービス提供が容易になります。

注:

1. インスタンス・ルート・パスに入っているファイルのみ変更できます。このパスはデフォルトでは /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name* です。
2. インスタンスのエンタープライズ・アプリケーションがデプロイされると、すべての JSP ファイルおよびその他の資産は以下の場所に保管されます。

```
/QIBM/UserData/WebASAdv4/was_instance_name/installedApps/  
WC_Enterprise_App_instance_name.ear
```

このディレクトリーにあるファイルも変更可能です。

WebSphere Commerce を特定のインスタンス用に構成する場合、構成マネージャーは選択した構成オプションの必須ファイルをすべて UserData パスにコピーします。以下のパスにある元のファイルは変更しないでください。

```
/QIBM/ProdData/WebCommerce
```

重要: PTF を適用したり、製品を再インストールすると、ProdData ディレクトリー・パスにあるファイルが削除されたり、上書きされることがあります。そのため、ProdData ディレクトリー・パスにはカスタマイズ済みファイルを保管しないでください。

以下の表は、WebSphere Commerce のインストールおよび構成プロセスによって作成され、ルート・ファイル・システムに保管されるディレクトリーおよびストリーム・ファイルをリストしています。ディレクトリー・パス /*instance_root*/ は、ディレクトリー・パス /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name* を指しています。ここで、*instance_name* は構成時にインスタンスに指定される名前です。

パス	意味
/instance_root/xml/instance_name.xml	インスタンス構成ファイル。このファイルには、WebSphere Commerce サーバーの構成設定が含まれています。
/instance_root/web	IBM HTTP サーバーの文書ルート・ディレクトリー。
/QIBM/UserData/WebASAdv4/WAS_instance_name/installedApps/WC_Enterprise_App_Inst_name.ear	インスタンス・プロパティ・ファイルを含むディレクトリー。カスタマイズ済みの資産の正確な場所については、WebSphere Commerce プログラマーズ・ガイド を参照してください。
/instance_root/logs	WebSphere Commerce ログ・ファイルを含むディレクトリー。
/instance_root/xml	WebSphere Commerce インスタンス構成 XML ファイルを含むディレクトリー。
/instance_root/cache	インスタンスのキャッシュ・ファイルを含むディレクトリー。
/instance_root/sar	WebSphere Commerce ストア・アーカイブ・ファイルを含むディレクトリー。

データベースのレイアウトの照会

SQL ステートメントを使用することにより、データベース・レイアウトに関する情報を照会することができます。DB2/400 Query Manager と SQL development kit を使用するか、または Operations Navigator for iSeries を使用することができます。Client Access™ を使用してデータベース照会を実行するには、以下のようになります。

1. インストールする PC から Operations Navigator for iSeries を開始します。
2. 「データベース」アイコンを右マウス・ボタン・クリックして、「Run SQL Scripts (SQL スクリプトの実行)」を選択します。「Run SQL Scripts (SQL スクリプトの実行)」ウィンドウがオープンします。
3. 必要な SQL ステートメントをウィンドウに入力します。たとえば、以下のようになります。
 - データベース内のすべてのテーブルのリストを表示するには、以下のように入力します (大文字のみで 1 行に入力します)。

```
SELECT TABLE_NAME FROM QSYS2.SYSTABLES WHERE
TABLE_SCHEMA='DB_SCHEMA_NAME'
```
 - 特定のテーブルにある列にリストを表示するには、以下のように入力します (1 行で)。

```
SELECT * FROM QSYS2.SYSCOLUMNS WHERE TABLE_SCHEMA='DB_SCHEMA_NAME'
AND TABLE_NAME='TABLE_NAME'
```
 - 特定のテーブルにあるレコードを表示するには、以下のように入力します。

```
SELECT * FROM 'DB_SCHEMA_NAME'.'TABLE_NAME'
```

ここで、

'DB_SCHEMA_NAME'

インスタンス・データベースの名前。

'TABLE_NAME'

照会するデータベース・テーブルの名前。

これらの SQL ステートメントおよびその他の SQL ステートメントの詳細については、*AS/400 DB2 UDB for AS/400 SQL Reference Information (SC41-5612-04)* を参照してください。

第 4 章 IBM WebSphere Commerce のインストール

この章では、iSeries 上に WebSphere Commerce システムをインストールする方法について説明します。始める前に、5 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』で説明されているステップを必ず完了してください。

重要

3 ページの『第 1 章 インストール前の要件』に概説されている要件を満たしていることが重要です。そうしないと、インストール・プロセス中に問題が発生する可能性があります。また、製品のプログラムのご使用条件 (WebSphere Commerce メディア・キット内にある) を検討する必要があります。

WebSphere Commerce を複数のマシンにインストールする手順は、単一のマシンについて説明されている手順と同様です。しかし、WebSphere Commerce を複数のマシンにインストールする場合、各マシンにインストールしてから、データベースをリモート・データベース・アクセス用にセットアップする必要があります。

単一のマシンにインストールするか、複数のマシンにインストールするかに関係なく、20 ページの『WebSphere Commerce のインストール』のステップに従う必要があります。

IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2

IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 は、オンライン・マーチャント用のプロトコル独立型支払いトランザクション・サーバーです。これはキャッシュ・レジスター機能をサイトに提供しており、プロトコル固有カセットを使用した複数の支払いメソッドをサポートします。これらのカセットは、Payment Manager フレームワークに付加できるソフトウェア・コンポーネントで、汎用の支払いおよび管理コマンドを支払いプロトコル固有の要求に解釈します。そして、それらの要求は該当する宛先 (決済期間の支払いゲートウェイなど) に転送されます。最終結果は、従来のストアでキャッシャーがチェックアウト・カウンターで支払いカードを通して読ませるときと同様になります。

Payment Manager のインストール前に

最新の README ファイル `readme.framework.html` をお読みください。これには、次の Payment Manager の Web サイトでアクセスできます。

www.ibm.com/software/webservers/commerce/paymentmanager/support/readme31.html

Payment Manager のインストール

IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 はローカルにもリモートにもインストールできます。Payment Manager を WebSphere Commerce と同じマシンで実行する場合、両方のアプリケーションが 1 つのデータベース・コレクション (ローカルでもリモートでも可) を共用することがあります。データベース・コレクションが共用

されるのは、Payment Manager インスタンスと WebSphere Commerce インスタンスが共通のインスタンス名とポートを持っている場合です。Payment Manager を WebSphere Commerce マシンとは別のマシンで実行する場合、2 つのアプリケーションは 2 つの固有のデータベース・コレクションを使用します。Payment Manager データベース・コレクションはリモート Payment Manager マシン上になければなりません。

ローカル Payment Manager インスタンスを使用するには、Payment Manager を WebSphere Commerce マシン上にインストールします。Payment Manager をインストールするには、以下のようにします。

1. Payment Manager CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. ライセンス・プログラムのリストア (**RSTLICPGM**) コマンドを使用して、Payment Manager for iSeries 製品をインストールします。
3. Payment Manager 製品番号、および製品のインストール元のデバイスを指定します。たとえば、RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) のようにします。

WCSRealm を使用可能にする

CRTPYMMGR コマンドを使用して Payment Manager インスタンスを作成する場合、サポートするデフォルトのレルムとして PSOS400Realm が提供されます。しかし、Payment Manager インスタンスが作成される WCSRealm を使用するには、管理コンソールを介して Payment Manager を手動で構成する必要があります。WCSRealm を使用するようにシステムを手動で構成するには、以下のようにします。

1. Payment Manager マシン上で、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止します。
 - a. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を拡張表示します。
 - b. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
 - c. *node name* を拡張表示します。
 - d. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
 - e. 「**WPM *instnace_name* WebSphere Payment Manager**」を選択し、「停止」をクリックします。
3. 「**JVM Settings (JVM 設定)**」タブを選択し、「System Properties (システム・プロパティ)」ボックスをスクロールダウンします。 **wpm.RealmClass** システム・プロパティを選択し、以下の値を変更します。

```
com.ibm.etill.framework.payserverapi.PSOS400Realm
```

以下の値に変更します。

```
com.ibm.commerce.payment.realm.WCSRealm
```

「適用」をクリックします。

4. Payment Manager インスタンス・ディレクトリー /QIBM/UserData/PymSvr/*instance_name*/ で、WCSRealm.properties という ASCII ファイルを作成し、以下のエントリーを追加します。

```
WCSHostName=domain-qualified host_nameUseNonSSLWCSCClient=[0|1]
WCSWebServerPort=port_number
WCSWebPath=/webapp/wcs/stores/servlet
```

注:

- a. NonSSL を使用する場合は UseNonSSLWCSCClient を 1 に設定し、SSL を使用する場合は 0 を設定します。
- b. UseNonSSLWCSCClient=1 の場合は WCSWebServerPort を NonSSL WebSphere Commerce ポート番号 (たとえば、80) に設定し、UseNonSSLWCSCClient=0 の場合は SSL WebSphere Commerce ポート番号 (たとえば、443) を設定します。

ファイルを保管します。

5. iSeries セッションから以下のコマンドを実行して、WCSRealm.jar を Payment Manager インスタンスの ear ディレクトリーにコピーします。

```
CPY OBJ('/QIBM/ProdData/PymSvr/Java/WCSRealm.jar')
TOOBJ('/QIBM/UserData/WebASAdv4/server/installedApps/
      payment_instance_name_IBM_PaymentManager.ear/WCSRealm.jar')
```

ここで、*server* は Payment Manager インスタンスを実行する WebSphere Application Server の名前、*payment_instance_name* は Payment Manager インスタンスの名前です。

6. iSeries セッションから Payment Manager インスタンスを再始動します。以下のコマンドを使用して、Payment Manager インスタンスを終了します。

```
ENDPYMMGR PYMMGR(payment_instance_name) PWD(payment_instance_password)
```

以下のコマンドを使用して、Payment Manager インスタンスを開始します。

```
STRPYMMGR PYMMGR(payment_instance_name) PWD(payment_instance_password)
```

ここで、*payment_instance_password* は、Payment Manager インスタンスの作成時に CRTPYMMGR コマンドに指定したパスワードです。

WCSRealm の詳細については、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプを参照してください。

Payment Manager カセットのインストール

Payment Manager をインストールする場合、付属するカセットもインストールすることができます。カセットをインストールするには、以下のようになります。

1. Payment Manager CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. ライセンス・プログラムのリストア (**RSTLICPGM**) コマンドを使用して、iSeries 製品用の Payment Manager SET、CyberCash、VisaNet、または BankServACH カセットをインストールします。
3. Payment Manager 製品番号、製品のインストール元のデバイス、およびインストールするカセットの適切なオプション番号を指定します。
 - SET カセットをインストールするには、以下のように入力します。

```
RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) OPTION(1)
```
 - CyberCash カセットをインストールするには、以下のように入力します。

```
RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) OPTION(2)
```
 - VisaNet カセットをインストールするには、以下のように入力します。

RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) OPTION(3)

- BankServACH カセットをインストールするには、以下のように入力します。

RSTLICPGM LICPGM(5733PY3) DEV(OPT01) OPTION(4)

WebSphere Application Server 4.0 のインストール

インストール・プロセスは、以下の 2 つのステップで構成されます。

1. WebSphere Application Server ランタイム環境を iSeries サーバー上にインストールする。
2. WebSphere 管理コンソール・コンポーネントをワークステーション上にインストールする。

iSeries サーバーに製品をインストールする前に管理コンソールをインストールすることはできますが、WebSphere Application Server 環境が正常にインストールされて開始されるまで、管理コンソールを開始することはできません。

WebSphere Application Server を iSeries サーバー上にインストールし、WebSphere 管理コンソールをワークステーション上にインストールするには、以下のようになります。

1. WebSphere Application Server 環境を iSeries サーバー上にインストールします。
 - a. iSeries サーバーに前提条件となるソフトウェアが備わっていることを確認します。4 ページの『前提条件となるソフトウェア』を参照してください。
 - b. WebSphere Application Server 製品をインストールします。

- 1) WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition for iSeries CD-ROM を iSeries サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。

注:

- a) この一連のステップでは、WebSphere Application Server Advanced Edition for Windows NT、AIX、Solaris、または Linux CD-ROM (WebSphere Application Server Advanced Edition for iSeries パッケージにも付属しています) を使用しないでください。
 - b) ユーザー・プロファイルに *ALLOBJ 権限がなければなりません。
- 2) 以下のコマンドを、示されているとおりに、1 行に連続して入力します。大文字小文字の区別も示されているとおりにしてください。

```
RUNJAVA CLASS(SETUP) CLASSPATH('/QIBM/ProdData/Java400/jt400ntv.jar:  
/QOPT/WebSphere/OS400:/QOPT/WebSphere/OS400/INSTALL.JAR:  
/QOPT/WebSphere') PROP((os400.runtime.exec QSHELL)  
(java.compiler jitc) (java.version 1.3))
```

注: このコマンドは表示目的で折り返されています。これは、1 つのコマンドとして入力してください。

- c. 正しい OS/400 累積 PTF パッケージがインストールされていることを調べます。
 - 1) サーバーにサインオンします。
 - 2) OS/400 コマンド行に PTF 状況の表示 (**DSPPTF**) コマンドを入力します。最初の PTF の状況は**一時適用**になっていますが、この PTF はサーバーにインストールされた累積 PTF と相関関係があります。

このプロセスの次のステップに進む前に、前提条件となる OS/400 累積 PTF パッケージをオーダーして、インストールする必要があります。

d. WebSphere Application Server に必要な追加の PTF をインストールします。

WebSphere Application Server 製品の Fix はグループ PTF for iSeries として出荷されます。WebSphere を初めて開始する前に、最新の WebSphere Application Server 4.0 for iSeries グループ PTF をロードし、適用する必要があります。このグループ PTF には最新の WebSphere for iSeries PTF が含まれています。これは、製品を最新の WebSphere for iSeries レベル (本書の印刷時には 4.0.2) に修正します。また、このグループ PTF には、他のグループ PTF または累積 PTF パッケージには含まれていない、IBM Developer Kit for Java、DB2 Universal Database for iSeries、および IBM HTTP Server 用の各種の PTF も含まれています。これらの各種 PTF をインストールする必要があります。そうしないと、管理サーバーの開始時に障害が起こる可能性があります。

ご使用の WebSphere Application Server V4.0 版 (Advanced または Advanced Single Server) および OS/400 リリース・レベルについて、オーダーおよびインストールしなければならないグループ PTF を判別するには、WebSphere Application Server Web サイトの PTF ページを参照してください。このページには、以下の URL にある **PTF** リンクを使ってアクセスできます。

www.ibm.com/servers/eserver/iseries/software/websphere/wsappserver/

前提条件となるすべての製品は、グループ PTF パッケージをインストールする前にインストールしておく必要があります。たとえば、パッケージに入っている Java PTF は、IBM Developer Kit for Java 1.3 (5722-JV1 オプション 5) がサーバー上にインストールされていないと、インストールされません。前提条件となるすべての製品がインストールされていない場合、WebSphere Application Server の開始時に障害が起こる可能性があります。

以下の説明は、WebSphere Application Server for iSeries グループ PTF をインストールする方法を示しています。

- 1) 前提条件ソフトウェアがすべてインストールされていることを調べます。
- 2) WebSphere for iSeries グループ PTF CD-ROM を iSeries サーバーの CD-ROM ドライブに挿入します。
- 3) システム・コンソールにサインオンします。ユーザー・プロファイルに *ALLOBJ 権限がなければなりません。
- 4) 以下のコマンドを入力して、システムを制限状態に置きます。
ENDSBS SBS(*ALL)
- 5) システムが制限状態になったら、OS/400 コマンド行から以下のコマンドを入力します。
GO PTF
- 6) メニューからオプション 8 (Install program temporary fix package (プログラム一時修正パッケージのインストール)) を選択します。
- 7) 以下のパラメーター値を指定して、Enter を押します。
 - a) CD ROM ドライブのデバイスを指定します (たとえば、OPT01)。
 - b) 自動 IPL: Y

c) PTF タイプ: 1 (All PTF)

これで、すべての PTF がインストールされたら、サーバーを再始動します。

- 8) リリースおよび既知の問題と対処策の説明については、グループ PTF のインストール後にインストールする WebSphere のバージョンの製品の Release Notes を参照してください。Release Notes は、WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition documentation ページで入手できます。

2. WebSphere 管理コンソールをワークステーション上にインストールします。

a. 管理コンソール・コンポーネントをインストールします。

- 1) ご使用のワークステーション用のオペレーティング・システムの WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition CD-ROM を挿入します。たとえば、Windows NT を使用する場合は、WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition for Windows NT CD-ROM を挿入します。

注: この一連のステップでは、WebSphere Application Server 4.0 Advanced Edition for iSeries CD-ROM (WebSphere Application Server Advanced Edition for iSeries パッケージにも付属しています) を使用しないでください。

- 2) Windows ワークステーションを使用する際に自動実行が使用可能になっていると、Windows InstallShield プログラムが自動的に開始します。自動実行が使用可能になっていない場合、Windows Explorer を使用して CD-ROM ドライブを指定することにより、Windows InstallShield プログラムを開始します。setup.exe ファイルをダブルクリックしてください。

AIX、Solaris、HP-UX、または Linux ワークステーションを使用する場合、オペレーティング・システム (AIX、Solaris、HP、または Linux) の名前が付いたサブディレクトリーに進み、.install.sh を入力して、インストール・スクリプト・ファイルを実行します。

- 3) インストール用の言語を選択して、「OK」をクリックします。

- 4) 「次へ」をクリックします。

- 5) ワークステーション・マシンに WebSphere Application Server の以前のバージョンがインストールされている場合、「Previous Installation Detected (以前のインストールが検出されました)」パネルが表示されます。ワークステーション上に WebSphere 管理コンソールの新しいバージョンをインストールするには、「次へ」をクリックします。

このパネルが表示されない場合は、次のステップに進みます。

- 6) 「インストール・オプション」パネルで、「Custom Installation (カスタム・インストール)」を選択します。「次へ」をクリックします。

- 7) 「Choose Application Server Components (Application Server コンポーネントの選択)」パネルで、「Administrator's Console (管理コンソール)」、「Application and Development Tools (アプリケーションおよび開発ツール)」、および「IBM JDK 1.3.0」を選択します。「次へ」をクリックします。

- 8) ホスト名を入力します。ホスト名を判別するには、WebSphere Application Server 環境が開始されていることを確認してから、以下のステップに従ってください。
 - a) OS/400 コマンド行に TCP/IP の構成 (CFGTCP) コマンドを入力します。
 - b) オプション 12 (Change TCP/IP domain information (TCP/IP ドメイン情報の変更)) を選択します。
 - c) ホスト名の値をメモします。この値をホスト名パラメーターとして使用しなければなりません。

注: ホスト名は iSeries 上で入力する必要があります。エントリーが存在しない場合、WebSphere 管理コンソールは接続を行いません。ホスト名エントリーがない場合は、追加してください。

さらに、ホスト名パラメーターには大文字小文字の区別があります。たとえば、iSeries 上のホスト名が小文字の場合、WebSphere 管理コンソールを iSeries サーバーに接続する際にも小文字を使用する必要があります。

この方法は最も単純なケースで使用します。さらに複雑なシナリオ (複数の IP アドレス、複数の別名、または複数のドメイン・ネーム・システム (DNS) エントリーを持つシステム) では、追加の TCP/IP 構成が必要となる場合があります。

WebSphere 管理コンソールは、デフォルトでポート 900 を使用します。管理サーバーを開始する際に `admin.bootstrapPort` パラメーターでデフォルト・ポートを変更した場合、そのポートを WebSphere 管理コンソールに指定する必要があります。

- 9) 宛先ディレクトリーの名前を入力します。これは、管理コンソールがインストールされているワークステーションのディレクトリーです。「次へ」をクリックします。
 - 10) 「Select Program Folder (プログラム・フォルダーの選択)」パネルで「次へ」をクリックして、デフォルトのプログラム・フォルダー名を受け入れます。
 - 11) 選択したオプションを調べます。変更するには、「戻る」をクリックします。インストールを継続するには、「次へ」をクリックします。

「Installing IBM WebSphere Application Server (IBM WebSphere Application Server のインストール中)」パネルが表示され、インストール・プロセスの進行状況が示されます。
 - 12) インストール・プログラムにより、すべてのファイルがワークステーションにコピーされ、必要な構成があれば実行します。インストールが完了すると、「セットアップが完了しました」パネルが表示されます。「終了」をクリックします。
- b. 管理コンソールの適切な FixPak をインストールします。

管理コンソール用の Fix は FixPak として出荷され、各管理コンソール・マシンにインストールされます。それぞれの FixPak には以前の FixPak からの Fix が含まれています。たとえば、FixPak 2 には新しい Fix と FixPak 1 からの Fix が含まれています。

管理コンソールのバージョンが、iSeries サーバー上にインストールされた WebSphere Application Server のバージョンと一致するように、管理コンソール・ワークステーションには正しい FixPak をインストールする必要があります。たとえば、WebSphere Application Server のバージョン 4.0.4 をインストールする場合、FixPak 4 もインストールして、管理コンソールをバージョン 4.0.4 にアップグレードする必要があります。

使用している WebSphere Application Server のレベルを判別するには、product.xml ファイルの「Edition」、「Version」、および「Build」の値を比較してください。ワークステーションでは、ファイルは

`was_install_dir\properties\com\ibm\websphere` にあります。ここで、`was_install_dir` は WebSphere インストール・ディレクトリーです。

iSeries サーバーでは、ファイルは

`/QIBM/ProdData/WebASAdv4/properties/com/ibm/websphere` にあります。ワークステーションとサーバーのレベルが同じである場合、これらのファイルでは、「Edition」、「Version」、および「Build」の値が同じはらずです。

管理コンソールの FixPak の入手およびインストールの詳細については、WebSphere Application Server 4.0 for iSeries Release Notes を参照してください。

注: FixPak のインストールの説明については、Release Notes の「Installation Instructions」のセクションにあります。


インストールの一部に問題がある場合、WebSphere Application Server documentation center の「troubleshooting information」のセクションを参照してください。

WebSphere Commerce のインストール

以下のステップは、IBM WebSphere Commerce のインストール方法を説明しています。このセクションのステップを続ける前に、WebSphere Application Server をインストールする必要があります。

注: それぞれのソフトウェア CD に含まれる内容の詳細については、製品の README を参照してください。README は次の URL のいずれかで表示できます。


www.software.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html

 www.software.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html

WebSphere Commerce を複数のマシンにインストールする場合、WebSphere Commerce をインストールするマシンごとに以下のステップを繰り返してください。

WebSphere Commerce システムのすべてのコンポーネントをインストールするには、以下のようにします。

1. 「Software Requirements」のセクションにある製品がインストールされていない場合は、それらに付属する資料を使用してインストールします。

2. 5 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』で作成したユーザー・プロファイルとしてログオンします。
3. コマンド行に次のコマンドを入力します。
CHGMSGQ QSYSOPR *BREAK SEV(70)
4. WebSphere Commerce CD を iSeries CD-ROM ドライブに挿入します。
5. コマンド行に RSTLICPGM と入力します。
6. プロンプトに対して PF4 キーを押します。
7. 該当する入力フィールドに、LICPGM (5733WC5) および DEV 名を入力します。
8. LNG フィールドに、インストールする言語フィーチャーのフィーチャー・コードを入力して、Enter を押します。
9. 1 次言語が英語以外のシステムに WebSphere Commerce をインストールする場合には、メッセージ Load another volume into device OPTxx (デバイス OPTxx に別のボリュームをロードしてください) に応答するよう求められます。言語 MRI を含む CD を CD ドライブに入れて、メッセージに応答してください。英語のみのシステムでは、何もせずに次のステップに進んでください。
10. *BASE がリストアされたことを示す、肯定応答メッセージが表示されます。
11. 上記で英語以外の言語 MRI を含む CD を入れた場合には、その CD を取り出し、WebSphere Commerce の CD を入れます。
12. コマンド行に RSTLICPGM と入力します。
13. プロンプトに対して PF4 キーを押します。
14. 該当する入力フィールドに、LICPGM (5733WC5) および DEV 名を入力します。
15. OPTION (1) および RSTOBJ (*PGM) を入力して、追加の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールし、Enter を押します。オプション 1 がリストアされたことを示す、肯定応答メッセージが表示されます。
16. コマンド行に RSTLICPGM と入力します。
17. プロンプトに対して PF4 キーを押します。
18. 該当する入力フィールドに、LICPGM (5733WC5) および DEV 名を入力します。
19. OPTION (2) および RSTOBJ (*PGM) を入力して、追加の WebSphere Commerce コンポーネントをインストールし、Enter を押します。オプション 2 がリストアされたことを示す、肯定応答メッセージが表示されます。これで、WebSphere Commerce Professional Edition のインストールが完了しました。
20.  WebSphere Commerce Business Edition をインストールする場合、この後のステップを完了する必要があります。コマンド行に RSTLICPGM と入力します。
21. プロンプトに対して PF4 キーを押します。
22. 該当する入力フィールドに、LICPGM (5733WC5) および DEV 名を入力します。
23. OPTION (3) および RSTOBJ (*PGM) を入力して、追加の WebSphere Commerce Business Edition コンポーネントをインストールし、Enter を押します。オプション

ョン 3 がリストアされたことを示す、肯定応答メッセージが表示されます。これで、WebSphere Commerce Business Edition のインストールが完了しました。

第 2 部 WebSphere Commerce 5.4 の構成作業

このセクションでは、次のようなトピックを記載しています。

- 25 ページの『第 5 章 構成前のステップ』
- 27 ページの『第 6 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』
- 53 ページの『第 7 章 クイック構成コマンドを使用したインスタンスの作成』
- 57 ページの『第 8 章 構成後のステップ』

WebSphere Commerce を正常に構成するには、25 ページの『第 5 章 構成前のステップ』および 57 ページの『第 8 章 構成後のステップ』にある適切なステップを完了する必要があります。インスタンスの作成は、構成マネージャー・ツールを使用して、27 ページの『第 6 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』のステップに従って行います。

第 5 章 構成前のステップ

この章には、WebSphere Commerce インスタンスを構成する前に完了する必要がある作業のリストが載せられています。

リモート・インスタンスの構成

*LOCAL 以外のリレーショナル・データベースを使用する場合は、データベースをリモート・アクセス用に設定する必要があります。WebSphere Commerce インスタンスを構成するとき、ユーザー・プロファイルが *LOCAL システムに作成されます。

リモート・データベースを使用するようシステムを構成するには、以下のようになります。

1. 作成するインスタンス名と同じ名前のユーザー・プロファイルをリモート・システム上に作成します。インスタンスのデフォルト言語として使用する予定の言語と一致するように、ユーザー・プロファイルの言語設定を構成します。
2. このユーザー・プロファイルのパスワードは、*LOCAL システム上のものと同じでなければなりません。これは、データベースの構成時に、構成マネージャーの「**Database Logon Password (データベース・ログオン・パスワード)**」フィールドに入力するパスワードです。
3. リモート・マシン上の DDM TCP/IP サーバーを開始します。そうするには、Operations Navigator でリモート・マシンの「**Network (ネットワーク)**」オプションを使用するか、以下のコマンドを実行します。

```
STRTCPSVR SERVER(*DDM)
```

WebSphere Application Server の開始

WebSphere Application Server を開始するには、以下のようになります。

1. iSeries サーバーに管理者としてログオンします。
2. OS/400 コマンド行で、以下のコマンドを入力してください。
WRKACTJOB SBS(QEJBADV4)
3. サブシステムを実行していない場合は、OS/400 コマンド行から以下を入力します。
STRSBS SBS(QEJBADV4/QEJBADV4)
4. コマンド WRKACTJOB SBS(QEJBADV4) を入力し、QEJBADMIN および QEJBMNTR ジョブが表示されるまで画面を最新表示します。また、サブシステムが終了した時点で実行していたその他の WebSphere Application Server インスタンスが開始しているのがわかることもあります。

デフォルト以外の WebSphere Application Server インスタンスの開始については、以下の Web ページを参照してください。

<http://publib.boulder.ibm.com/was400/40/AE/english/docs/admmustr.html>

次のステップ

この章に示されている必要なステップがすべて完了したら、以下の章のステップを行うことによって、構成マネージャーを使ってインスタンスを作成できます。

- 27 ページの『第 6 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』

第 6 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更

この章では、構成マネージャーによりインスタンスを作成または変更する方法について説明します。25 ページの『第 5 章 構成前のステップ』で説明されているステップがまだ完了していない場合、インスタンスを作成することはできません。

注:

1. IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 を使用してインスタンスのオンライン・トランザクションを処理するには、インスタンスを作成する前に Payment Manager をインストールしなければなりません。Payment Manager をインストールする方法については、13 ページの『Payment Manager のインストール』を参照してください。
2. WebSphere Application Server 4.0 では、単一の WebSphere Commerce サーバーは、インストールされた EJB モジュール、および 1 つ以上のストアへのクライアント要求の役割を果たす、インストールされた Web モジュールから構成されます。WebSphere Commerce 構成マネージャーでは、個々の WebSphere Commerce インスタンスは、インスタンス・ツリー中の別々のルート・カテゴリーとして表示されます。WebSphere Application Server トポロジー・ビューでは、WebSphere Commerce インスタンスは、ノード・エントリーの下に独立した WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーとして表示されます。

この章のチェックリスト

- DDM サーバーが実行中であることを確認します。
- WebSphere Application Server が開始されていることを確かめます。
重要: WebSphere Application Server セキュリティーをオンにしている場合は、インスタンスを作成する前に使用不可にしなければなりません。WebSphere Application Server セキュリティーに関する詳しい情報については、69 ページの『第 11 章 WebSphere Application Server のセキュリティを使用可能にする』を参照してください。

構成マネージャーの起動

構成マネージャーは、WebSphere Commerce インスタンスの構成作業で使用できる複雑なオプションをグラフィカル・インターフェースで指定するためのユーティリティです。構成マネージャーには、iSeries サーバーと同じネットワークに接続されている Windows マシンからアクセスします。構成マネージャーにアクセスする Windows マシンには、IBM Developer Kit for Windows、Java 2 Technology Edition v1.3 がインストールされている必要があります。

構成マネージャーにアクセスするには、以下のステップを完了します。

セットアップ:

1. Windows マシンを使用して、iSeries サーバーの /QIBM/ProdData/WebCommerce/wcs400 ディレクトリーの内容を PC 上のハード・ディスクにコピーします。これで、PC ハード・ディスクに

WCS400 という新しいディレクトリーが作成されます。以下の説明の中でも、このディレクトリーを WCS400 と呼びます。

2. 以下のファイル (PC 上にある) の中の JDK パスを変更します。

```
WCS400¥config_env.bat
```

このファイルの中に以下の行を追加することによって、JDK パスを定義します。

```
set PATH=Drive:¥jdk131¥bin;%PATH%
```

ここで、*jdk131* は JDK ディレクトリーへのパスです。Windows マシンに WebSphere Application Server がインストールされているなら、その JDK を使用できます。その場合、以下の行を使用して JDK パスを設定します。

```
set PATH=Drive:¥websphere¥appserver¥java¥bin;%PATH%
```

3. Windows マシンで、以下のようになります。
 - a. 「スタート」メニューの「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
 - b. 表示されるダイアログ・ボックスに、以下のように入力します。

```
JAVA_bin_path¥java -jar WCS400_Path¥RAWTGui.jar
```

ここで、*JAVA_bin_path* は、IBM Developer Kit for Windows, Java 2 Technology Edition, v1.3. の bin ディレクトリーで、*WCS400_Path* は WCS400 フォルダの PC ドライブと完全パスです。

- c. 「OK」をクリックします。
4. プロファイルの *jobd* を変更して、ジョブ・ログが循環するようにします。OS/400 コマンド行で、以下を入力します。

```
CHGJOB JOB(DQFTJOB) JOBMSGQFL(*WRAP)
```

サーバーの開始:

1. iSeries にログオンします。このときに、プロファイルに *SECOFR ユーザー・クラスがあること、および英語またはご自分のインスタンス用のデフォルト言語として選択する言語のどちらかの言語に固有の設定を使ってセットアップされていることを確認してください。5 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』を参照してください。
2. WebSphere Application Server が iSeries システムにインストールされていること、そして Admin Server が実行されていることを確認してください。そのためには、**WRKACTJOB** コマンドを使って、アクティブなジョブについて調べます。サブシステム QEJBADV4 の下にジョブ QEJBADMIN がなければなりません。カスタム WebSphere Application Server インスタンスを使用する場合は、このジョブに別の名前が付いていることがあります。このサブシステムがそこになければ、以下のコマンドを実行することによりそれを開始できます。

```
STRSBS SBS(DQFTJOB/QEJBADV4)
```

サブシステムは表示されているが、ジョブ QEJBADMIN がいない場合は、(**ENDSBS** コマンドを使って) そのサブシステムを終了してから、そのサブシステムを再始動してください。

3. 以下のコマンドを入力します。

```
STRWCSCFG IP('Client_IP_address') PORT('Server_port_number')
```

ここで、

Client_IP_address

構成マネージャーのクライアントを実行するクライアント・マシンの、数値 IP アドレス、またはホスト名のどちらか。

Server_port_number

構成マネージャーが listen する対象となる iSeries サーバー上のポート番号。このパラメーターはオプションで、デフォルトは 1099 です。この値は 1024 ~ 65535 の間でなければなりません、現在は使用されていません。

注: インスタンス作成のために使用する言語が 1 次言語と同じでないシステムの場合には、ユーザー・プロファイルのライブラリー・リストの中に *QSYSlanguage_feature_number* ライブラリーを追加する必要があります。そうしないなら、プロファイルは、QSYS の下でそれを検索しようとしています。言語フィーチャー・ライブラリーを追加するには、EDTLIBL コマンドを使用します。

4. 構成マネージャーがシステム上で初めて実行するときに、以下のメッセージが表示されます。

```
Attaching Java program to /Qibm/ProdData/WebCommerce/lib/WCSConfig.jar.  
Press ENTER to end terminal session.
```

これらのメッセージが表示されたら、Enter を押して続行します。

5. 以下に示すメッセージが出たなら、次のセクション、「クライアントの開始」に進んでください。

```
Registry created.  
CMServer bound in registry.
```

クライアントの開始:

1. クライアント・マシンのコマンド・プロンプトを使って、WCS400 ディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを実行することによって、クライアントを構成します。

```
config_client.bat iSeries_Host_name Server_port_number
```

iSeries_Host_name はサーバーの完全修飾ホスト名、*Server_port_number* は構成マネージャーが listen する iSeries サーバーのポート番号です。

3. 「Configuration Authentication (構成認証)」ウィンドウが表示されたら、ユーザー ID とパスワードを入力します。最初にこれを実行する時点で、ユーザー ID は webadmin、パスワードは webibm になっています。初回ログイン時に、それを変更する必要があります。
4. 30 ページの『インスタンス作成ウィザード』の情報に従って、インスタンスを構成します。

インスタンス作成ウィザード

インスタンスを作成するには、WebSphere Commerce 構成マネージャーで以下のようになります。

1. ホスト名を拡張表示します。
2. 「インスタンス・リスト」を右マウス・ボタン・クリックします。
3. 表示されるポップアップ・メニューで、「インスタンスの作成」を選択します。
4. 「インスタンス作成ウィザード」がオープンします。以下の各パネルのフィールドに入力してください。

インスタンス

インスタンス名

インスタンスのために使用する名前。デフォルトの名前は demo です。インスタンス名は 9 文字以下でなければなりません。

インスタンスのルート・パス

WebSphere Commerce インスタンスに関連するすべてのファイルを保存するパスを入力します。デフォルトのパスは、
`/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/instance_name` です。

マーチャント・キー

これは、構成マネージャーが暗号鍵として使用する 16 桁の 16 進数です。「マーチャント・キー」フィールドには、**独自の鍵を入力してください**。特に実動サーバーの場合、サイト保護に十分な鍵を入力するようにしてください。ストアを作成した後は、この鍵を変更できるのは、**データベース更新ツール**を使用する場合だけです。このツールを使用するには、構成マネージャーにアクセスします。インスタンス・プロパティの下ツリーを拡張表示してから、データベース・ノードを右マウス・ボタン・クリックし、「**データベース更新ツールの実行**」を選択します。

PDI 暗号化

このチェック・ボックスは、ORDPAYINFO と ORDPAYMTHD のテーブルに指定された情報を暗号化するように指定するのに使います。このチェック・ボックスを選択すると、支払い情報がデータベースに暗号化された形式で保管されます。

PVC ヘッダー使用可能

将来のリリースのために予約済み。

URL マッピング・ファイル

URL マッピングのために使用するファイルのパスを入力します。デフォルトのファイルをそのまま使用することもできます。

データベース

リレーショナル・データベース名

データベースに割り当てる名前を入力します。

この名前の長さは 18 文字以下にしてください。

インスタンス・ログオン・パスワード

作成される新規インスタンスのユーザー・プロファイルのパスワードです。

ステージング・サーバーの使用

「ステージング・サーバーの使用」を選択すると、構成マネージャーは、このデータベースをステージング・サーバーで使用するものとして定義します。ステージング・サーバーについては、WebSphere Commerce のオンライン情報をご覧ください。(その情報にアクセスする方法については、95 ページの『オンライン・ヘルプの使用』を参照してください。)

リモート・データベースの使用

データベース・サーバーが WebSphere Commerce とは異なるノード上にある場合は、このチェック・ボックスを使用可能にします。

注: WebSphere Commerce とは異なるノード上にデータベース・サーバーをインストールした場合 (たとえば、2 層または 3 層環境を構成する場合)、このチェック・ボックスを選択する必要があります。

データベース・サーバー・ホスト名

このフィールドは、「リモート・データベースの使用」を選択した場合に有効になります。このリモート・データベース・サーバーのホスト名の完全修飾名を入力します。

言語

構成マネージャーの「言語」パネルは、必要なすべての言語をサポートするようにデータベースを構成する場合に使います。ドロップダウン・リストからデフォルトの言語を選択します。デフォルトの言語に一致する

wcs.bootstrap_multi_xx_XX.xml ファイルが「選択言語」ウィンドウに表示されるはずですが、追加言語へのサポートをデータベースに追加するには、以下のステップを完了します。

1. 「使用可能な言語」ウィンドウから、該当する言語の .xml ファイルを選択します。 .xml ファイルは、wcs.bootstrap_multi_xx_XX.xml という形式です (xx_XX は選択する言語の 4 文字のロケール・コード)。
2. 「選択言語」ウィンドウを指す矢印をクリックします。選択した言語が「選択言語」ウィンドウに表示されます。
3. ステップ 1 と 2 を、サポートの必要な言語ごとに実行します。

注: 複数の言語をサポートするストア、たとえば英語でもスペイン語でも使用可能なストアを作成しようとする場合、ストアがサポートするすべての言語を選択する必要があります。この場合、「選択言語」ウィンドウに英語とスペイン語の両方が表示されていなければなりません。WebSphere Commerce で提供されるサンプル・ストアは複数の言語をサポートしています。「言語」パネルで 1 つの言語だけを選択する場合、複数の言語をサポートしないサンプル・ストアの部分は表示されません。

Web サーバー

リモート Web サーバーの使用

Web サーバーを WebSphere Commerce サーバーとは別のマシンにインストールする場合は、このチェック・ボックスを選択します。このボックスが選択されると、Web サーバーは構成マネージャーでは構成されません。

注: WebSphere Commerce とは異なるノード上に Web サーバーをインストールした場合 (たとえば、3 層環境を構成する場合)、このチェック・ボックスを選択する必要があります。

ホスト名

Web インスタンスの完全修飾 ホスト名を入力入力します (hostname.domain.com が完全修飾名です)。ホスト名フィールドに www 接頭部を入力しないようにしてください。

Web サーバー・タイプ

ドロップダウン・リストから、使用する予定の Web サーバー・ソフトウェアを選択します。

1 次文書ルート

Web サーバーの文書ルートのパスとして、デフォルトをそのまま受け入れるか、または入力します。デフォルト・パスは /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/instance_name/web です。入力するパスは、既存のパスでなければなりません。

サーバー・ポート

WebSphere Commerce サーバーで使用するポート番号を入力します。デフォルト値は、80 です。

認証モード

この WebSphere Commerce インスタンスで使用する認証モードを選択します。選択肢は以下のとおりです。

基本 認証は、カスタム証明書を使って実行されます。

X.509 認証は、X.509 証明書規格を使って実行されます。

WebSphere™

データ・ソース名

WebSphere Commerce が作業するデータベースにアクセスするための接続プールのセットアップに使用します。デフォルトを受け入れるか、「データ・ソース名」に入力します。

ポート番号

WebSphere Application Server が listen するポート・アドレスを入力します。WebSphere Application Server の開始時に別のポートを指定していなければ、デフォルトを受け入れることができます。

WebSphere 管理サーバー

使用する Websphere 管理サーバーの名前を入力します。Websphere 管理サーバーは、インスタンスを構成する前に完全に開始しておく必要があります。デフォルトの Websphere 管理サーバー名は、"default" です。

JDBC ドライバーの場所

JDBC ドライバーの場所を入力します。デフォルトは /QIBM/ProdData/Java400/ext/db2_classes.jar です。

ストア Web アプリケーション

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのストア Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。

ツール Web アプリケーション

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのツール Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。

ツール・ポート番号

WebSphere Commerce の管理ツールへのアクセスに使用されるポート番号。デフォルト・ポート番号は、8000 です。Domino Web サーバーを使用する場合は、これをポート番号 443 に変更する必要があります。

WebSphere Catalog Manager

このチェック・ボックスを選択すると、WebSphere Catalog Manager WebEditor がインストールされます。これには、https://host_name:8000/wcm/webeditor によりアクセスできます。デフォルトで、これはインストールされます。

Payment Manager

Payment Manager の使用

このチェック・ボックスは、WebSphere Commerce インスタンスの作成時に WebSphere Commerce で Payment Manager インスタンスを作成するようにする場合に選択します。構成マネージャーが作成する Payment Manager インスタンスの名前は、この後の「ホスト名」および「Web サーバー・ポート」のセクションで言及されている特殊な場合を除いて、WebSphere Commerce インスタンスの名前と同じです。Payment Manager インスタンス・パスワードは、WebSphere Commerce インスタンス・ログオン・パスワードと同じです。

ローカル Payment Manager インスタンスに関する注意:

Payment Manager インスタンスと WebSphere Commerce インスタンスの名前が同一である場合、それらのインスタンスは同じインスタンス・ライブラリーを共有します。つまり、WebSphere Commerce テーブルと Payment Manager テーブルが両方とも同じリレーショナル・データベースにあるということです。また、Payment Manager インスタンスは、WebSphere Commerce インスタンスと HTTP サーバーも共有します。Payment Manager 別名があれば、WebSphere Commerce ストアの HTTP サーバー構成ファイルに追加されます。さらに、Payment Manager インスタンスは、WebSphere Application Server で、仮想ホストも WebSphere Commerce インスタンスと共有します。

リモート Payment Manager の使用

WebSphere Commerce インスタンスの作成時に WebSphere Commerce で Payment Manager のインスタンスを作成するようにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。

注: リモート・システムでは、ローカル・マシンで WebSphere Commerce 構成マネージャーの始動 (**STRWCSCFG** コマンドを使用) に使用したのと同じ ID とパスワードを持つユーザー・プロファイルが必要です。そうしないと、WebSphere Commerce 構成マネージャーはリモート・マシンにアクセスできません。

リモート・システム名

リモート Payment Manager マシンの完全修飾ホスト名を入力します。

ホスト名

Payment Manager インスタンスの完全修飾ホスト名を入力します。このフィールドのデフォルトは、システムのホスト名です。リモート・マシンに Payment Manager をインストールしている場合は、このフィールドにはリモート Payment Manager インスタンスの完全修飾ホスト名を入れてください。

ローカル Payment Manager インスタンスに関する注意:

指定されるホスト名が WebSphere Commerce インスタンスのホスト名と異なる場合、構成マネージャーは WebSphere Commerce インスタンス名の末尾に文字 p を追加したインスタンス名で Payment Manager インスタンスを作成します。たとえば、WebSphere Commerce インスタンスの名前が wcinst である場合、Payment Manager インスタンスの名前は wcinstp となります。これは、WebSphere Commerce インスタンスと Payment Manager インスタンスの間 HTTP サーバーと仮想ホストの競合を避けるために行われます。この場合、Payment Manager インスタンスには独自のインスタンス・ライブラリー、HTTP サーバー、および仮想ホストがあります。

プロファイル・パス

WebSphere Commerce Payment Manager Cashier の標準のプロファイルの保存先ディレクトリーの絶対パス名。デフォルト値は /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/xml/payment です。

非 SSL Payment Manager クライアントの使用

WebSphere Commerce に非 SSL Payment Manager クライアントを使用して Payment Manager サーバーと通信させる場合は、このチェック・ボックスをオンにします。それにより、WebSphere Commerce は、SSL を使わずに Payment Manager と通信できるようになります。

Web サーバー・ポート

Payment Manager が使用する Web サーバーの TCP ポートを入力します。「非 SSL Payment Manager クライアントの使用」チェック・ボックスを選択した場合、このフィールドのデフォルト値は 80 (非セキュア・ポート) です。「非 SSL Payment Manager クライアントの使用」チェック・ボックスをオンにしなかった場合、このフィールドのデフォルト値は 443 (SSL ポート) です。

ローカル Payment Manager インスタンスに関する注意:

Payment Manager Web サーバー・ポートが WebSphere Commerce ストア Web サーバー・ポートと異なる場合 (つまり SSL ポートが 443 ではないか、または非 SSL ポートが Web サーバー・パネルの「サーバー・ポート」フィールドの値でない場合)、構成マネージャーは WebSphere Commerce インスタンス名の末尾に p を追加したインスタンス名を持つ Payment Manager インスタンスを作成します。たとえば、WebSphere Commerce インスタンスの名前が wcinst である場合、Payment Manager インスタンスの名前は wcinstp となります。これは、WebSphere Commerce インスタンスと Payment Manager インスタンスの間で HTTP サーバーと仮想ホストの競合を避けるためです。この場合、Payment Manager インスタンスには独自のインスタンス・ライブラリー、HTTP サーバー、および仮想

ホストがあります。SSL ポートが使用される場合、Payment Manager HTTP サーバーはハードコーディングされた非 SSL ポート 8999 を使用し、WebSphere Commerce ストア HTTP サーバーの非 SSL ポート (80) と競合しないようにします。

ログ・システム

トレース・ファイルの場所

これは、デバッグ情報の収集先となるファイルの場所です。その中には、英語のデバッグ・メッセージが入れます。注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じときは、それらのファイルの内容はマージされます。

トレース・ファイル・サイズ

これは、トレース・ファイルの最大サイズ (MB) です。デフォルトのトレース・ファイルのサイズは 40 MB です。トレース・ファイルがこのサイズに達すると、別のトレース・ファイルが作成されます。

メッセージ・ファイルの場所

これは、WebSphere Commerce システムの状態を記述するメッセージの収集先ファイルの場所です。メッセージは、ロケールに依存します。注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じときは、それらのファイルの内容はマージされます。

メッセージ・ファイル・サイズ

これは、メッセージ・ファイルの最大サイズ (MB) です。デフォルトのトレース・ファイルのサイズは 40 MB です。メッセージ・ファイルがこのサイズに達すると、追加のメッセージ・ファイルが作成されます。

アクティビティ・ログ・キャッシュ・サイズ

アクティビティ・ログのキャッシュの最大サイズを入力します。

通知使用可能

エラー・レベル・メッセージが通知されるようにする場合には、このチェック・ボックスを選択します。それらのメッセージを受け取るには、WebSphere Commerce 管理コンソールでも通知情報を変更する必要があります。

メッセージング

ユーザー・テンプレート・ファイル

これは、新しいインバウンド XML メッセージがシステムでサポートされるようにするための XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルには、サポートする新しい XML メッセージごとに 1 つのアウトラインを追加する必要があります。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの user_template.xml を使用することをお勧めします。

インバウンド・メッセージ DTD パス

これは、インバウンド XML メッセージのすべての DTD ファイルの保存先となるパスです。デフォルトは /QIBM/ProdData/WebCommerce/xml/messaging です。

WebController ユーザー ID

これは、すべての WebSphere Commerce MQSeries® アダプター・インバウンド・メッセージを実行するために WebSphere Commerce が使用する ID です。この ID は、サイト管理者権限が付与されたものでなければなりません。デフォルトは wcsadmin です。ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルを更新するための権限は、許可された人だけに付与されるようにしてください。というのは、この ID の使用により WebSphere Commerce コマンドを実行するためにインバウンド XML メッセージをマッピングできるからです。

システム・テンプレート・ファイル

これは、WebSphere Commerce MQSeries アダプターによってサポートされるインバウンド XML メッセージのアウトラインを含む、XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルは、メッセージを該当する WebSphere Commerce コントローラー・コマンドにマッピングし、メッセージ内の各フィールドをそのコマンドの該当するパラメーターにマッピングすることにより、各メッセージのデータ・フィールドを定義します。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの sys_template.xml を使用することをお勧めします。

テンプレート・パス

これは、ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルの保存先のパスです。デフォルトは /QIBM/ProdData/WebCommerce/xml/messaging です。

インバウンド・メッセージ DTD ファイル

これは、インバウンド XML メッセージのための DTD および組み込みファイルのリストです。新しいインバウンド XML メッセージを追加する場合は、それをこのフィールドに追加する必要があります。

オークション

オークションを使用可能にする

オークションを使用可能にする場合、「使用可能」チェック・ボックスを選択します。

SMTP サーバー

このフィールドは、「オークションを使用可能にする」を選択した場合に有効になります。E メール・メッセージを受け取るのに使う SMTP サーバーを定義します。

応答 E メール

このフィールドは、「オークションを使用可能にする」を選択した場合に有効になります。これは、送信側の E メール情報を定義します。

インスタンス作成の開始

すべてのパネルに必要な情報を入力したなら、「終了」ボタンが使用可能になります。「終了」をクリックすると、WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。

システムの速度によって、インスタンスの作成に数分から数時間かかることがあります。インスタンス作成が開始されると進行状況表示バーが表示されます。プロセ

スが完了すると、そのことが進行状況表示バーに示されます。この試行が正常に完了したら、「OK」をクリックして、「インスタンス作成」ウィザードをクローズします。

リモート・データベースの構成の完了

インスタンスを構成したら、リモート・データベースの構成の完了に進むことができます。これを行うには、以下のステップを完了します。

1. リモート・マシン上のインスタンスのユーザー・プロファイルを変更して、インスタンス・ライブラリーを現行ライブラリーに設定します。これらの変更を完了するには、次のコマンドを実行します。

```
CHGUSRPRF USRPRF(instance_name) CURLIB(instance_name)
```

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

2. Websphere Commerce がインストールされるマシン上で、**WRKRDBDIRE** コマンドを使用して、インスタンスのスキーマを作成するデータベースのエントリーがあることを確認します。
3. マシンごとに、WebSphere Commerce がインストールされているマシンに一度ログオンし、次のコマンドを実行します。

```
RUNJAVA CLASS(com.ibm.db2.jdbc.app.DB2PackageCreator)  
  PARM('remote_system' 'user' 'password')
```

remote-system はデータベース・スキーマを作成するマシンのホスト名、*user* はリモート・システム上で新しいオブジェクトを作成する権限を付与されているプロファイル、そして *password* は *user* のパスワードです。

4. インスタンスごとに、リモート・システムで作成したインスタンス・ユーザー・プロファイルが、QGPL ライブラリーの *SQLPKG オブジェクトに対する権限を持っているかどうかを、次のコマンドを実行して確認します。

```
GRTOBJAUT OBJ(QGPL/*ALL) OBJTYPE(*SQLPKG) USER(instance_user_profile) AUT(*USE)
```

インスタンスの開始と停止

インスタンスが作成されたなら、それを開始する必要があります。そのためには、以下のステップを完了します。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. 「WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)」を拡張表示します。
3. 「Nodes (ノード)」を拡張表示します。
4. 「Node_name」を拡張表示します。
5. 「Application Servers (アプリケーション・サーバー)」を拡張表示します。
6. 「*instance_name*」 — 「WebSphere Commerce Server」を選択して、右マウス・ボタン・クリックします。必要に応じて「開始」または「停止」を選択します。

構成の追加オプション

基本インスタンスを作成して開始したら、以下のノードで、WebSphere Commerce をさらに構成することができます。

注: 多くのオプションは、インスタンスが作成されてしまうと再構成できません。変更が許可されているオプションは、このセクションにリストされているものだけです。

インスタンス・プロパティ

インスタンス作成ウィザードで使用可能だったすべてのパネルが、「構成マネージャー」の「インスタンス・プロパティ」ノードの下に表示されます。以下のパネルは新規のものか、または「インスタンス作成ウィザード」パネルから変更されたものです。

データベース

構成マネージャーの「データベース」パネルを使用して、WebSphere Commerce を特定のデータベースで作業するように構成します。以下のようにフィールドに入力します。

インスタンス・ログオン・パスワード

データベースと関連したインスタンス・ユーザー・プロファイルのパスワードです。

言語

構成マネージャーの「言語」パネルは、必要なすべての言語をサポートするようにデータベースを構成する場合に使います。追加言語へのサポートをデータベースに追加するには、以下のステップを完了します。

1. 「使用可能な言語」ウィンドウから、該当する言語の .xml ファイルを選択します。 .xml ファイルは、 wcs.bootstrap_multi_xx_XX.xml という形式です (xx_XX は選択する言語の 4 文字のロケール・コード)。
2. 「選択言語」ウィンドウを指す矢印をクリックします。選択した言語が「選択言語」ウィンドウに表示されます。
3. ステップ 1 と 2 を、サポートの必要な言語ごとに実行します。

注: 複数の言語をサポートするストア、たとえば英語でもスペイン語でも使用可能なストアを作成しようとする場合、ストアがサポートするすべての言語を選択する必要があります。この場合、「選択言語」ウィンドウに英語とスペイン語の両方が表示されていなければなりません。WebSphere Commerce で提供されるサンプル・ストアは複数の言語をサポートしています。「言語」パネルで 1 つの言語だけを選択する場合、複数の言語をサポートしないサンプル・ストアの部分は表示されません。

WebSphere

構成マネージャーの「WebSphere」パネルを使用して、WebSphere Application Server が WebSphere Commerce と対話する方法を構成します。以下のようにフィールドに入力します。

データ・ソース名

WebSphere Commerce が作業するデータベースにアクセスするための接続プールのセットアップに使用します。

ポート番号

WebSphere Application Server が接続されているポート・アドレスを入力します。 WebSphere Application Server の開始時に別のポートを指定していなければ、デフォルトを受け入れることができます。

WebSphere 管理サーバー

使用する WebSphere 管理サーバーの名前を入力します。その WebSphere 管理サーバーは、 WebSphere Commerce インスタンスを構成する前に、完全に開始された状態になっていなければなりません。デフォルトの WebSphere 管理サーバーの名前は default です。

JDBC ドライバーの場所

JDBC ドライバーの場所を入力します。デフォルトは /QIBM/ProdData/Java400/ext/db2_classes.jar です。

Web サーバー

「Web サーバー」パネルの「一般」タブには、「インスタンス作成」ウィザードで表示されるバージョンのパネルと同じパラメーターが含まれています。

構成マネージャーの「Web サーバー」パネルを使って、 Web サーバーが使用されるように WebSphere Commerce を構成します。以下のようにフィールドに入力します。

Web サーバー・タイプ

ドロップダウン・リストから、使用する Web サーバー・ソフトウェアを選択します。

1 次文書ルート

Web サーバーの文書ルートのパスとして、デフォルトをそのまま受け入れるか、または入力します。入力するパスは、既存のパスでなければなりません。

サーバー・ポート

Web サーバーが実行されるポート番号を入力します。デフォルト値は、80 です。

認証モード

この WebSphere Commerce インスタンスで使用する認証モードを選択します。選択肢は以下のとおりです。

- 基本認証は、カスタム証明書を使って実行されます。
- X509 認証は、X509 証明書規格を使って実行されます。

「拡張」タブには、すべての Web サーバーの別名のリストが含まれています。新規の別名を追加するには、「拡張」タブを選択し、右マウス・ボタン・クリックして、「**行の追加**」を選択します。別名を削除するには、削除したい別名を選択し、右マウス・ボタン・クリックして、「**行の削除**」を選択します。

注: 現在、「拡張」タブは使用できません。

インスタンス

構成マネージャーの「インスタンス」パネルは、インスタンスに関する基本情報を指定するときに使用します。複数のインスタンスを作成する場合は、各インスタンスが異なる名前とルート・パスを持つようにしてください。

PDI 暗号化

ORDPAYINFO および ORDPAYMTHD テーブルに指定された情報を暗号化するには、このチェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスを選択すると、支払い情報がデータベースに暗号化された形式で保管されます。

PVC ヘッダー使用可能

将来のリリースのために予約済み。

URL マッピング・ファイル

URL マッピングのために使用するファイルのパスを入力します。デフォルトのファイル /QIBM/ProdData/WebCommerce/xml/mapping/urlmapper.xml をそのまま使用することもできます。

Payment Manager

構成マネージャーを使用して以前に Payment Manager インスタンスを作成したことがある場合は、「プロファイル・パス」を除いて、このパネルのすべてのフィールドが使用不可になります。構成マネージャーを使って Payment Manager インスタンスを変更することはできません。構成マネージャーを使って Payment Manager インスタンスを再作成するには、Payment Manager インスタンスを削除し、instance_name.xml ファイル (通常 /QIBM/UserData/WebCommerce/instances/instance_name/xml フォルダーにある) を以下のようにバックアップして、変更する必要があります。

1. instance_name.xml ファイルの Payment Manager セクションで、UsePayment 属性の値を true から false に変更します。
2. ファイルを保管します。
3. 構成マネージャーを立ち上げます。
4. Payment Manager パネルを、30 ページの『インスタンス作成ウィザード』の説明に従って完成させて、「適用」をクリックします。

メンバー・サブシステム

構成マネージャーの「メンバー・サブシステム」パネルを使用して、WebSphere Commerce をディレクトリー・サーバーを使用するように構成します。

認証モード

「LDAP」、「データベース」、または「その他」を選択して、認証の代替モードを選択します。「LDAP」を選択すると、このパネルの他のフィールドは使用できません。

LDAP バージョン

WebSphere Commerce Server が LDAP サーバーとの通信に使用する LDAP プロトコルのバージョン。

LDAP タイプ

WebSphere Commerce で使用するディレクトリー・サーバーのソフトウェアを選択します。

単一サインオン

WebSphere Application Server によってすでに認証済みのユーザーが WebSphere Commerce で認識されるようにするには、このチェック・ボックスを選択します。現時点では、単一サインオンは WebSphere Commerce によってサポートされていません。

ホスト LDAP サーバーがインストールされている場所を指定する完全修飾ホスト名。

ポート LDAP サーバーで使用されるポート。デフォルト・ポートは、389 です。

管理者識別名

LDAP サーバー管理者の識別名。

管理者のパスワード

LDAP サーバー管理者のパスワード。

確認パスワード

LDAP 管理者のパスワードを再入力します。

LDAP 認証モード

LDAP サーバーが使用する認証メカニズムを指定します。 **None** を指定した場合、それは WebSphere Commerce が LDAP サーバーを認証しないことを意味します。 **Simple** の場合は、 WebSphere Commerce が識別名とパスワードを使用して LDAP サーバーを認証するということです。

タイムアウト

LDAP の検索がタイムアウトになるまでの時間 (秒数)。

エントリー・ファイル名

LDAP サーバーの初期設定に使用されるエントリー・ファイル。

メッセージング

ユーザー・テンプレート・ファイル

これは、新しいインバウンド XML メッセージがシステムでサポートされるようにするための XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルには、サポートする新しい XML メッセージごとに 1 つのアウトラインを追加する必要があります。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの user_template.xml を使用することをお勧めします。

インバウンド・メッセージ DTD パス

これは、インバウンド XML メッセージのすべての DTD ファイルの保存先となるパスです。

WebController ユーザー ID

これは、すべての WebSphere Commerce MQSeries アダプター・インバウンド・メッセージを実行するために WebSphere Commerce が使用する ID です。この ID は、サイト管理者権限が付与されたものでなければなりません。デフォルトは wcsadmin です。ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルを更新するための権限は、許可された人だけに付与されるようにしてください。というのは、この ID の使用により WebSphere Commerce コマンドを実行するためにインバウンド XML メッセージをマッピングできるからです。

システム・テンプレート・ファイル

これは、WebSphere Commerce MQSeries アダプターによってサポートされるインバウンド XML メッセージのアウトラインを含む、XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルは、メッセージを該当する WebSphere Commerce コントローラー・コマンドにマッピングし、メッセージ内の各フィールドをそのコマンドの該当するパラメーターにマッピングすることにより、各メッセージのデータ・フィールドを定義します。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの `sys_template.xml` を使用することをお勧めします。

テンプレート・パス

これは、ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルの保存先のパスです。

インバウンド・メッセージ DTD ファイル

これは、インバウンド XML メッセージのための DTD および組み込みファイルのリストです。新しいインバウンド XML メッセージを追加する場合は、それをこのフィールドに追加する必要があります。

セッション管理

構成マネージャーの「セッション管理」パネルには、以下に示す 2 つのタブがあります。

「一般」タブ:

cookie 使用可能

このチェック・ボックスは、セッション管理のためにサイトで cookie を使用することを指定するものです。これは、WebSphere Commerce の場合は、常に使用可能になっています。

URL 再書き込み使用可能

セッション管理に URL 再書き込みを使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。

cookie 受け入れテスト

ショッパーのブラウザーが、cookie のみサポートしているサイトの cookie を受け入れるかどうか調べる場合は、このチェック・ボックスを選択します。

cookie セッション・マネージャー

cookie の管理に、WebSphere Commerce と WebSphere Application Server の、どちらを使用するかを選択することができます。デフォルトは WebSphere Commerce です。

「拡張」タブ:

cookie パス

cookie のパスを指定します。これは cookie の送信先の URL のサブセットです。

cookie 有効期限

このフィールドは変更できません。デフォルトでは、ブラウザーがクローズされたときに cookie の有効期限が切れます。

cookie ドメイン

ドメインの制限パターンを指定します。 cookie を受け取るサーバーを、ドメインで指定します。デフォルトでは、cookie はその発信元の WebSphere Commerce サーバーだけに返送されます。

セキュリティー

セキュリティーは、構成マネージャーを介して構成できます。

セキュリティー使用可能

EJB セキュリティーを使用可能にするには、このチェック・ボックスを選択します。

注: このチェック・ボックスを選択する前に、WebSphere Application Server 内でグローバル・セキュリティー設定値を使用可能にする必要があります。

認証モード

ユーザーの認証に使用するレジストリーのタイプを決定します。オペレーティング・システムのユーザー・レジストリーと LDAP のユーザー・レジストリーがあります。

ユーザー ID

各 EJB にアクセスできるユーザー名を入力します。

ユーザー・パスワード

上記のユーザー ID に関連付けられているパスワードを入力します。

パスワード無効化

パスワード無効化機能を使用可能または使用不可にするには、「構成マネージャー」の「パスワード無効化」ノードを使用します。この機能を使用可能にすると、WebSphere Commerce ユーザーのパスワードの有効期限が切れた時点で、そのユーザーはパスワードを変更する必要があります。その場合、ユーザーは、パスワードの変更が必要となるページにリダイレクトされます。ユーザーは、パスワードの変更を完了するまで、そのサイトのどのセキュア・ページにもアクセスすることができません。この機能を使用可能にするには、以下のようにします。

1. 構成マネージャーの「パスワード無効化」ノードに移動します。これは、「*instance_name*」→「**インスタンス・プロパティー**」の下にあります。
2. パスワード無効化機能をアクティブにするには、「**使用可能**」チェック・ボックスをクリックします。
3. インスタンスの変更を適用するには、「**適用**」をクリックします。
4. インスタンスの構成が正常に更新されると、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

ログイン・タイムアウト

ログイン・タイムアウトのフィーチャーを使用可能または使用不可にするには、構成マネージャーの「ログイン・タイムアウト」ノードを使用します。この機能を使用可能にすると、長時間にわたって非アクティブの WebSphere Commerce ユーザーは、システムからログオフされ、ログオンし直すように要求されます。その後ユーザーが正常にログオンすると、WebSphere Commerce は、そのユーザーによって行われていた元の要求を実行します。ユーザーのログオンが失敗した場合は、元の要

求は廃棄され、そのユーザーはシステムからログオフされたままになります。この機能を使用可能にするには、以下のようにします。

1. 「構成マネージャー」を呼び出し、次のようにして、インスタンスの「ログイン・タイムアウト」ノードに移動します。
「WebSphere Commerce」 → 「host_name」 → 「インスタンス・リスト」
→ 「instance_name」 → 「インスタンス・プロパティ」 → 「ログイン・タイムアウト」
2. ログイン・タイムアウト機能をアクティブにするには、「使用可能」チェック・ボックスをクリックします。
3. 「ログイン・タイムアウト値」フィールドに、ログイン・タイムアウト値を秒単位で入力します。
4. インスタンスの変更を適用するには、「適用」をクリックします。
5. インスタンスの構成が正常に更新されると、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

パスワード保護されたコマンド

「パスワード保護されたコマンド」機能を使用可能または使用不可にするには、「構成マネージャー」の「パスワード保護されたコマンド」ノードを使用します。このフィーチャーを使用可能にした場合、WebSphere Commerce において、指定された WebSphere Commerce コマンドの実行要求を継続するために、登録済みユーザーがパスワードを入力することが必要になります。この機能を使用可能にするには、以下のようにします。

1. 構成マネージャーをオープンし、次のようにして、インスタンスの「パスワード保護されたコマンド」ノードに移動します。「WebSphere Commerce」 → 「host_name」 → 「インスタンス・リスト」 → 「instance_name」 → 「インスタンス・プロパティ」 → 「パスワード保護されたコマンド」
2. 「一般」タブで、以下のようにします。
 - a. 「パスワード保護されたコマンド」機能をアクティブにするには、「使用可能」をクリックします。
 - b. 「再試行」フィールドに再試行の回数を入力します。(デフォルトの再試行回数は 3 です。)
3. 「拡張」タブで、以下のようにします。
 - a. 保護したい WebSphere Commerce コマンドを「Password Protected Command List (パスワード保護されたコマンドのリスト)」ウィンドウのリストから選択して、「追加」をクリックします。選択したコマンドが「Current Password Protected List (現行のパスワード保護されたコマンドのリスト)」ウィンドウにリストされます。
 - b. いずれかの WebSphere Commerce コマンドのパスワード保護を使用不可にしたい場合は、「Current Password Protected Command list (現行のパスワード保護されたコマンドのリスト)」ウィンドウにあるコマンドを選択して、「除去」をクリックします。
4. インスタンスの変更を適用するには、「適用」をクリックします。
5. インスタンスの構成が正常に更新されると、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

注: WebSphere Commerce では、使用可能コマンドのリストの CMDREG テーブルで「認証済み」として指定されているコマンドのみ表示します。

サイト間スクリプト保護

サイト間スクリプト保護機能を使用可能または使用不可にするには、「構成マネージャー」の「サイト間スクリプト保護」ノードを使用します。この機能を使用可能にすると、許可しないものとして指定されている属性または文字を含むユーザー要求は、すべて拒否されます。構成マネージャーのこのノードで、許可しない属性と文字を指定することができます。この機能を使用可能にするには、以下のようになります。

1. 構成マネージャーをオープンし、次のようにして、インスタンスの「サイト間スクリプト保護」ノードに移動します。
 - 「WebSphere Commerce」→ 「host_name」→ 「インスタンス・リスト」
→ 「instance_name」→ 「インスタンス・プロパティ」→ 「サイト間スクリプト保護」
2. サイト間スクリプト保護機能をアクティブにするには、次のように「一般」タブを使用します。
 - a. 「使用可能」をクリックします。
 - b. WebSphere Commerce コマンドで許可しない属性を追加するには、「禁止属性」テーブルを右マウス・ボタン・クリックして、「**行の追加**」を選択します。許可しない属性をコンマ (,) で区切って追加します。たとえば、user_id, passwd のようにします。
 - c. 「禁止属性」テーブルから属性を除去するには、そのテーブルにあるその属性を含む行を強調表示して、それを右マウス・ボタン・クリックし、「**行の削除**」を選択します。
 - d. WebSphere Commerce コマンドで許可しない文字を追加するには、「禁止文字」テーブルを右マウス・ボタン・クリックして、「**行の追加**」を選択します。許可しない文字をコンマ (,) で区切って追加します。たとえば、<, > のようにします。
 - e. 「禁止文字」テーブルから文字を除去するには、「禁止文字」テーブルにあるその文字を含む行を強調表示して、それを右マウス・ボタン・クリックし、「**行の削除**」を選択します。
3. 選択した WebSphere Commerce コマンドの指定した属性のサイト間スクリプト保護を使用不可にするには、次のように「拡張」タブを使用します。
 - a. 「コマンド・リスト」ボックスからコマンドを選択します。
 - b. 属性をコンマで区切ったリストを入力します。それらについては、「例外属性のリスト」ウィンドウで禁止文字が許可されます。「**追加**」をクリックします。
 - c. コマンドをその属性とともに除去するには、「例外コマンドのリスト」ウィンドウからそのコマンドを選択して、「**除去**」をクリックします。

属性を選択して「**除去**」をクリックすることにより、コマンドから特定の属性を除去することもできます。
4. 構成マネージャーへの変更を適用するには、「**適用**」をクリックします。
5. インスタンスの構成が正常に更新されると、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表示されます。

取引

取引は、構成マネージャーを介して構成できます。

XML パス

取引コンポーネント用の xml ファイルが保管される場所のパス。

DTD パス

取引コンポーネント用の dtd ファイルが保管される場所のパス。

DTD ファイル名

取引コンポーネント用の dtd ファイル名。

コラボレーション - SameTime

Lotus Sametime は、カスタマー・ケアのコラボレーションを可能にします。これは、顧客サービス担当者とストアの顧客またはバイヤーの間で、Lotus Sametime を使用して、同期テキスト・インターフェース (インスタント・メッセージング (IM)) を介した顧客サービス・リアルタイム・サポートを提供します。

使用可能

カスタマー・ケアのコラボレーション機能をサイトで使用可能にする場合は、このチェック・ボックスを選択します。

ホスト名

Sametime サーバーの完全修飾ホスト名を入力します (完全修飾は `hostname.domain.com` という形式です)。「ホスト名」フィールドに `www` を入力しないでください。デフォルトは、WebSphere Commerce サーバーがインストールされているマシンの完全修飾ホスト名です。

登録 URL

Sametime サーバーの登録 URL を入力します。サイト管理者は、WebSphere Commerce 管理コンソールのユーザー・リスト「Register Customer Care (カスタマー・ケアの登録)」ボタンを使用して、Sametime サーバーにお客様サービス担当者を登録できます。

アプレット CodeBase URL

すべてのアプレット・コードが配置されているアプレット CodeBase URL を入力します。アプレット・コードが Sametime サーバー・マシンにインストールされていることを確認してください。

モニター・タイプ

カスタマー・ケア・アプレットで使用するモニターのタイプを選択します。

- 「Monitor Waiting Queue (待ち状態のキューをモニターする)」
- 「Monitor All Shoppers in Store (ストア中のすべてのショッパーをモニターする)」
- 「Monitor Waiting Queue and All Shoppers in Store (待ち状態のキューとストア中のすべてのショッパーをモニターする)」

デフォルトは「Monitor Waiting Queue (待ち状態のキューをモニターする)」です。

開始タイプ

カスタマー・ケアのコラボレーション中にヘルプ要求を開始できる人物を選択します。

- 「Shoppers initiate help (ショッパーがヘルプを開始する)」

- 「Both Customers and CSR initiate help (顧客と CSR がいずれもヘルプを開始する)」

ヘルプ・セッション限度

顧客サービス担当者が一度にオープンできるヘルプ・セッションの数を設定する値を入力します。値は正の整数でなければなりません。デフォルト値は 7 です。

CollaborativeWorkspaces - DirectoryAccess

Business

ディレクトリー・アクセスを適正に構成するためには、メンバー・サブシステムの認証モードとして LDAP を指定しなければなりません。

BaseDN

WebSphere Commerce メンバー・サブシステムで使用される LDAP の接尾部です (例、o= ルート組織)。

CollaborativeWorkspaces - QuickPlace

Business

QuickPlace は、チーム・コラボレーションに使用されるセルフサービスの Web ツールです。QuickPlace によって、Web 上に安全な中央ワークスペースをただちに作成できます。即時に参加できるように構造化されているため、チームは QuickPlace を使用して以下のことを実行できます。

- 調整: 人々、タスク、計画、およびリソース。
- コラボレート: アイデアの共有とディスカッション、問題の解決、文書の共著、ファイルの交換、および情報共有の管理。
- 通信: アクションと決定、鍵検索とレッスン、広範囲の読者を対象とした出版知識。

チームは、プロジェクト管理、随時イニシアチブに対する迅速な応答、および拡張された企業と値のチェーンに及ぶ個別のビジネス・プロセスを促進するために QuickPlace を使用します。

ドメイン

QuickPlace サーバーのドメイン。

ホスト名

QuickPlace サーバーのホスト名。

管理者ログイン

Domino 管理者のログイン名の末尾 /domain を追加したもの。

管理者のパスワード

Domino 管理者のパスワード。

コラボレーション管理者

コラボレーション・ワークスペース機能のスーパーユーザーのログイン名の末尾に /domain を追加したもの。

コラボレーション管理パスワード

コラボレーション・ワークスペースのスーパーユーザーのパスワード。

ロケール

QuickPlace サーバーのロケール。

コンポーネント

WebSphere Commerce インスタンスのために作成されたすべてのコンポーネントのリストを含むコンポーネント・ノード。コンポーネントを選択して「Enable Component (コンポーネント使用可能)」チェック・ボックスを選択することにより、任意のコンポーネントを使用可能または使用不可にすることができます。個々のコンポーネントについての詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。

このノードで、コンポーネントの作成または削除も行うことができます。コンポーネントを除去するには、それを選択し、右マウス・ボタン・クリックして「コンポーネントの除去」を選択します。コンポーネントを追加するには、「コンポーネント」を選択し、右マウス・ボタン・クリックして、「コンポーネントの作成」を選択します。そのコンポーネントに付ける名前、およびそのコンポーネントに関連付けるクラスを入力して、「コンポーネント使用可能」を選択します。

保護パラメーター

保護パラメーターとは、WebSphere Commerce で生成されるトレース・ファイルの中のプレーン・テキストには値が現れないパラメーターのことです。これらには、クレジット・カード番号やユーザー・パスワードなどの機密情報が含まれています。構成マネージャーの「保護パラメーター」パネルには、現在保護されているすべてのパラメーターのリストが表示されます。

このリストにパラメーターを追加するには、以下のステップを完了します。

1. 「保護パラメーター」パネルで、「**行の追加**」をマウスの右ボタンでクリックして選択します。
2. 作成されているテーブルの行に、保護するパラメーターの名前を入力します。
3. 「**適用**」をクリックします。

リストからパラメーターを除去するには、そのパラメーターをマウスの右ボタンでクリックしてから、「**行の削除**」を選択します。

レジストリー

レジストリーは通常、データベースに保管される、比較的静的な情報をキャッシュに入れるために使用されます。RequestServlet の初期化の際に、レジストリー・マネージャーが、構成マネージャーを介して定義されたすべてのレジストリーを、WebSphere Commerce の内部定義されたレジストリーとともに初期化します。データベース情報は、パフォーマンスの向上のためにレジストリー内のキャッシュに入れられます。

レジストリーを作成するには、「**レジストリー**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**レジストリーの作成**」を選択します。これにより「レジストリーの作成」ウィザードが起動します。以下のようにフィールドに入力します。

レジストリー名

作成するレジストリーに割り当てる名前を入力します。

レジストリー・クラス名

新規のレジストリーに関連付けるクラスの名前を入力します。

オークション

オークションを使用可能にする

オークションを使用可能にする場合、「使用可能」チェック・ボックスを選択します。

SMTP サーバー

このフィールドは、「オークションを使用可能にする」を選択した場合に有効になります。E メール・メッセージを受け取るのに使う SMTP サーバーを定義します。

応答 E メール

このフィールドは、「オークションを使用可能にする」を選択した場合に有効になります。これは、送信側の E メール情報を定義します。

外部サーバー・リスト

外部サーバー・リストには、デフォルトの LikeMinds サーバー・アドレスが含まれています。また、外部イベントを処理するリスナー・クラスのリストも含まれています。

LikeMinds リスナーは、デフォルトで追加されています。このリスナーにより、外部イベントが LikeMinds サーバーに追加されます。

Commerce アクセラレーター

構成マネージャーの Commerce アクセラレーター・ノードを使用すると、WebSphere Commerce のビジネス・インテリジェンス・コンポーネントを構成して、それを WebSphere Commerce Analyzer に組み込むことができます。Commerce Analyzer は、WebSphere Commerce に付属のオプションのソフトウェア・パッケージです。Commerce Analyzer のインストールと構成についての詳細は、*WebSphere Commerce 追加ソフトウェア・ガイド* を参照してください。

ビジネス・インテリジェンスを構成するには、以下のフィールドに入力します。

統計ソース

統計データが保持されているマシンの完全修飾ホスト名を入力します。これは、実動サーバーかステージング・サーバーのどちらかにすることができます。デフォルト値は、WebSphere Commerce がインストールされているマシンです。

WebSphere Commerce Analyzer はインストールされていますか？

Commerce Analyzer をインストールし、構成してある場合に、それを WebSphere Commerce で使用するには、「はい」を選択します。

レポート文書ルート

Commerce Analyzer によって作成されるレポートを保管する場所のパスを入力します。このフィールドに入力されたパスは、インスタンス・ディレクトリー・ルートの終わりに付加されます。デフォルトのパスは、`/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/instance_name` です。

ログ・システム

「ログ・システム」ノードの「一般」タブには、インスタンス作成ウィザードに含まれているすべてのパラメーターが含まれています。「拡張」タブを使用すると、トレース・ファイルに出力するコンポーネントを、トレース・ファイルに含める障害トラッキングのレベルと共に選択できます。トレースするコンポーネントとそのトレース・レベルを選択して、「適用」をクリックします。

個々のコンポーネントについての詳細は、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。

キャッシング・サブシステム

構成マネージャーのキャッシュ・ノードを使用して、キャッシュの構成、キャッシュへのコマンドの追加、コマンドからの鍵セットの除去、および鍵セットからの鍵の除去を行うことができます。

キャッシュ・ノードを選択して、適切な値を入力することにより、キャッシュを構成します。これらの値についての追加情報は、構成マネージャーの「ヘルプ」をクリックするか、または「Caching Parameters (キャッシュ・パラメーター)」でのオンライン・ヘルプで参照してください。

キャッシュにコマンドを追加するには、キャッシュ・ウィザードを使用します。それは、「キャッシュ」を右クリックして、「コマンドをキャッシュに追加」を選択することによって起動します。3つのパネルのフィールドをすべて入力して、すべてのパラメーターを入力したら「終了」をクリックします。コマンドをキャッシュから除去するには、そのコマンドを選択し、右クリックしてから、「コマンドをキャッシュから除去」を選択します。

鍵セットを削除するには、その鍵セットを選択し、右クリックしてから、「キャッシュされたコマンドから鍵セットを除去」を選択します。鍵を削除するには、その鍵セットを選択し、「拡張」タブで、削除する鍵を選択してから、右クリックして「行の削除」を選択します。

ストア・サービス構成

ストア・サービスを利用すると、WebSphere Commerce 付属のサンプルに基づくストア・アーカイブを短時間で作成できます。ストア・サービスの使用方法に関する追加情報については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。

構成マネージャーの「ストア・サービス構成」ノードを使用して、ストア・サービスの以下の3つのパラメーターを構成できます。

一時パス

ストア・サービスが、一時ファイルを発行時にコピーする際に使用するディレクトリです。発行が完了したら、それらのファイルはこのディレクトリから自動的に除去されます。デフォルトのディレクトリは `/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/instance_name/temp/tools/devtools` です。

最大エラー

発行プロセスがストア・データのロード中に許容できるエラーの最大数です。この数を超えた場合は、発行が停止してロールバックします。デフォルト値は、1 です。

コミット・カウント

この数は発行時に使用されます。レコードの各コミット・カウント数がロードされた後、データベースがコミットされます。データの中にエラーがあると、データベースは最新のコミット・ポイントまでロールバックされます。この数値は、ロードするデータの量に応じて変更してください。コミット・カウントをアーカイブ中の行数より大きな数に設定することにより、ロールバックが発生した場合にアーカイブ全体がロールバックされるようになります。デフォルト値は、17000 です。

トランスポート

デフォルトでは、E メール・トランスポート・システムが使用可能になっています。ただし、エラーの発生を防ぐために、メール・ホストを設定する必要があります。E メール・ホストを設定するには、以下のステップを完了します。

1. 「トランスポート」、「アウトバウンド」、「**JavaMail**」と拡張表示して、「**ConnectionSpec**」を選択します。
2. 「拡張」タブを選択します。
3. ホストの行の値のフィールドに、SMTP メール・サーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
4. プロトコルの行の値のフィールドに、値として `smtp` がリストされていることを確認してください。
5. 「適用」をクリックします。
6. WebSphere Application Server 管理コンソールで WebSphere Commerce Server を停止してから、再始動します。

アウトバウンド・トランスポートまたはインバウンド・トランスポートの対話仕様の構成には、構成マネージャーは使用できません。トランスポート関連の作業については、オンライン・ヘルプを参照してください。

次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスを構成して開始したら、システムのセットアップを終了するために、57 ページの『第 8 章 構成後のステップ』のステップを完了する必要があります。その章のステップを完了しないと、WebSphere Commerce Accelerator または WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスできません。

第 7 章 クイック構成コマンドを使用したインスタンスの作成

クイック構成コマンドを使用すると、ユーザーは構成マネージャーのグラフィック・ユーザー・インターフェースを立ち上げなくても、インスタンスを素早く作成することができます。ネイティブ・コマンド **CRTWCSINST** が代わりに使用されます。クイック構成コマンドにより、作業中のインスタンスを起動して実行するのが迅速かつ容易になります。使いやすさを向上させるために、クイック構成コマンドを使用した作成したインスタンスは、構成マネージャー・ユーザー・インターフェースを介して使用できるいくつかの拡張構成オプションを使用しません。

拡張構成の詳細については、27 ページの『第 6 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』を参照してください。

前提事項および制約事項

クイック構成コマンドを使ってインスタンスを作成する場合、以下のような前提と制限があります。

- このコマンドによって、ポート 900 で listen するデフォルトの WebSphere Application Server インスタンスとしてインスタンスが作成されます。
- インスタンス・ディレクトリーは `/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/instance_name` です。
- インスタンスは、サポートされている 10 言語ごとに、ブートストラップ・データをロードします。
- インスタンスはローカル・データベースを使用します。
- オークションは構成されません。必要な場合、インスタンス作成後に構成マネージャーを立ち上げて、オークションを構成する必要があります。
- Payment Manager を使用することを選択する場合、クイック構成コマンドにより、WebSphere Commerce インスタンスと同じインスタンス名を持つローカル Payment Manager インスタンスが構成されます。
- Java 仮想マシンが、5 ページの『iSeries ユーザー・プロファイルの作成』で定義されているインスタンス・ユーザー・プロファイルのローカライズ設定に一致した、正しい `file.encoding` プロパティを指定して開始されることを確認する必要があります。これを行うには、以下のステップを完了します。
 1. DSPUSRPRF コマンドを使用して、SECOFR ユーザー・プロファイルのホーム・ディレクトリー (HOMEDIR) を判別します。HOMEDIR が存在することを確かめます。存在しない場合は、作成してください。
 2. HOMEDIR には、SystemDefault.properties という名前のファイルが含まれていなければなりません。このファイルには 819 というタグが付けられており、ASCII データが入っています。このファイルは、ユーザー・プロファイルに一致した `file.encoding` プロパティを指定する必要があります。`file.encoding` プロパティは 1 行に指定し、スペースを含んではなりません。また、大文字小文字の区別があります。このファイルがすでに存在する場合、EDTF コマンドを使用して、`file.encoding` プロパティの値を以下の値のいずれかに設定してください。

- 中国
file.encoding=Cp1381
- 韓国
file.encoding=KSC5601
- 台湾
file.encoding=Cp950
- 日本
file.encoding=SJIS
- その他の言語
file.encoding=ISO8859_1

このファイルが存在しない場合、以下のコマンドのいずれかを使用して、ファイルを HOMEDIR にコピーする必要があります。

- 中国
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault_CN.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
- 韓国
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault_KR.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
- 台湾
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault_TW.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
- 日本
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault_JP.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')
- その他の言語
COPY OBJ('/QIBM/ProdData/WebCommerce/config/SystemDefault.properties')
TOOBJ('home_directory/SystemDefault.properties')

3. ファイルが作成されたら、それに 819 というタグが付いており、正しい ASCII データが入っていることを調べます。サインオフしてからサインオンして、**CRTWCSINST** コマンドを実行します。

クイック構成コマンドの起動

クイック構成コマンドを使用してインスタンスを作成するには、OS/400 コマンド・プロンプトで以下のように入力します。

```
CRTWCSINST INSTNAME(instance_name)
INSTPWD(instance_password)
INSTHOST(instance_hostname)
MERKEY(instance_merchant_key)
DFTLANG(instance_default)
USEPAYMENT(usePayment)
CNNCTTIME(connect_time)
PORT(port_number)
SERVERSTRT(serverStart)
SERVERSHUT(serverShutdown)
```

ここで、

instance_name

作成する WebSphere Commerce インスタンスの名前。現在は 9 文字に制限されています。

instance_password

インスタンス・ユーザー・プロファイル・パスワード。現在は 10 文字に制限されています。

instance_hostname

インスタンスが使用するホスト名。非ゼロのストリング。

instance_merchant_key

インスタンスが使用するマーチャント・キー。16 桁の 16 進数で、大文字小文字の区別があるストリング。

instance_default

インスタンスのデフォルト言語。有効な値は、*EN、*FR、*DE、*IT、*ES、*PT、*ZH_CN、*ZH_TW、*KO、*JA です。

usePayment

*YES オプションを指定すると、ローカル Payment Manager インスタンスが作成されます。「ローカル」とは、支払いインスタンスが WebSphere Commerce インスタンスと同じシステム上にあり、WebSphere Commerce インスタンスと同じインスタンス名、ホスト名 (したがって、HTTP サーバー)、およびインスタンス・ライブラリーを共用することを意味します。*NO オプションを指定すると、支払いインスタンスは作成されません。Payment Manager インスタンス・パスワードは、WebSphere Commerce インスタンス・ユーザー・プロファイル・パスワードと同じです。

connect_time

接続時間 (分単位)。

serverStart

*YES オプションを指定すると、CRTWCINST を呼び出す前に、構成マネージャー・サーバーがバックグラウンドで開始します。*NO オプションを指定すると、構成マネージャー・サーバーは開始されません。*NO オプションを選択する場合、構成マネージャー・サーバーはユーザーが手動で開始しなければなりません。これは、CRTWCINST コマンドを実行する前に STRWCSCFG コマンドを実行することによって行います。デフォルトは *YES です。

serverShutdown

*YES オプションを指定すると、インスタンスの作成後に構成マネージャー・サーバーが停止します。これはセキュリティ上の理由で適切です。*NO オプションを指定すると、インスタンスの作成後に構成マネージャー・サーバーは停止しません。複数のインスタンスを作成する場合には、このオプションを使用してください。そうすれば、構成マネージャー・サーバーを再度開始する必要がありません。デフォルトは *YES です。

port_number

構成マネージャー・サーバーが listen するポート番号。デフォルトは 1099 です。

CRTWCINST コマンドは、構成マネージャー・サーバーをバックグラウンドで実行するジョブとして開始してから、クイック構成プログラムを開始します。まず、クイック構成プログラムはサーバーに接続しようとしています。CNNCTIME 時間 (ユーザーが指定します。デフォルトは 5 分です) 内にサーバーに接続できない場合、プログラムは終了します。サーバーに接続した後、プログラムは入力パラメーター

を解析します。また、各入力が無効であるかどうか調べます。次に、クイック構成プログラムはインスタンス構成 XML ファイルを構成し、WebSphere Commerce インスタンスの作成を続けます。インスタンスが正常に作成されると、"Successfully added instance to the instance list" というメッセージが Java シェル画面に表示されます。インスタンスが正常に作成されないと、"Failed to add instance. Please check the configuration log for more information" というメッセージが Java シェル画面に表示されます。

第 8 章 構成後のステップ

この章には、WebSphere Commerce の構成を終了するために完了する必要があるすべてのステップが記載されています。

JavaServer™ Pages ファイルのコンパイル

JavaServer Pages™ ファイルをコンパイルすれば、WebSphere Commerce ツールのロードにかかる時間が大幅に短縮されます。JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、以下のようにします。

1. *SECOFR 権限が付与されているユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログオンします。
2. OS/400 コマンド行に QSH を入力することによって、QSHHELL セッションを立ち上げます。
3. 複数の JSP ファイルを一度にコンパイルするために、QSHHELL コマンド行から以下の一連のコマンドを実行します (それぞれのコマンドを 1 行で入力します)。

```
/QIBM/ProdData/webasadv4/bin/JspBatchCompiler
-instance WAS_Admin_Server_Name
-nameServerHost host_name
-nameServerPort port_number
-enterpriseApp 'instance_name - WebSphere Commerce
Enterprise Application'
-webModule 'WCS Stores' -keepgenerated true
```

```
/QIBM/ProdData/webasadv4/bin/JspBatchCompiler
-instance WAS_Admin_Server_Name
-nameServerHost host_name
-nameServerPort port_number
-enterpriseApp 'instance_name - WebSphere Commerce
Enterprise Application'
-webModule 'WCS Tools' -keepgenerated true
```

説明

host_name

ノードの名前です。通常、これはマシンの短いホスト名です。このパラメーターは必須です。これは、CFGTCP のオプション 12 のホスト名と一致している必要があります。

WAS_Admin_Server_Name

WebSphere Admin Server の名前です。デフォルトの WebSphere Administrative Server を使用する場合、このパラメーターは必要ありません。

port_number

使用する予定の iSeries サーバーのポート番号です。ポート番号は、admin.properties ファイルの com.ibm.ejs.sm.adminServer.bootstrapPort パラメーターで指定された番号と一致している必要があります。デフォルトの WebSphere Administrative Server を使用する場合、このパラメーターは必要ありません。

instance_name

WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

それらのコンパイルを実行すると、いくつかのエラーがログに記録されることがあります。これらは無視してください。

セッションから独立したキャッシュの使用可能化

WebSphere 管理コンソールから **Regen Webserver Plugin** を実行する場合、必ずこの機能は使用不可になります。これを使用可能にするには、以下のようになります。

1. テキスト・エディターで、以下のファイルをオープンします。
`/QIBM/UserData/webasadv4/WebSphereAppServer_instance/config/plugin-cfg.xml`
2. 以下の行を、`plugin-cfg.xml` ファイルの `<Config>` の下に直接追加します。
`< Property name="CacheLibrary" value="QWEBCOMM/QYWCCACHE" />`
3. インスタンス用の HTTP サーバーを再始動します。

時間帯の設定

適切な時間帯がトレース・ファイル内に書き込まれていることを確認するには、`user.timezone` プロパティを設定します。プロパティの構文は以下のとおりです。

```
user.timezone=time_zone
```

ここで、`time_zone` は時間帯のコードです (たとえば、中部標準時の場合は `CST`)。

`/home/instance_name` ディレクトリーにある `SystemDefault.properties` ファイルを編集します。ここで、`instance_name` はアプリケーション・サーバーが実行しているインスタンス・ユーザー・プロファイルです。ファイルが存在しない場合、このディレクトリーに作成してください。時間帯プロパティをこのように指定すると、WebSphere Application Server だけに影響を与えます。追加情報については、以下の Web アドレスを参照してください。

```
publib.boulder.ibm.com/was400/40/AE/english/docs/trctimez.html
```

次のステップ

WebSphere Commerce の構成を完了するために必要なステップをすべて終了したら、続いて以下のいずれか 1 つ以上を行います。

- ストア・サービスを使って、独自のストアを作成して発行します。ストア・サービスの使用法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプへのアクセスについては、95 ページの『付録 E. 詳細情報の入手方法』に記載されています。
- 典型的なストアの構築方法を理解するために、WebSphere Commerce で用意されているデモンストレーション・ストアの `InFashion` を発行します。ストア・サービスを使って `InFashion` を発行します。ストア・サービスの使用法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプを参照してください。WebSphere

Commerce のオンライン・ヘルプへのアクセスについては、95 ページの『付録 E. 詳細情報の入手方法』に記載されています。

- 次のような追加オプションを構成します。
 - 『第 9 章 IBM HTTP Server で SSL を使用可能にする』
 - 『第 11 章 WebSphere Application Server のセキュリティーを使用可能にする』

追加オプションの構成については、61 ページの『第 3 部 拡張構成オプション』に記載されています。

第 3 部 拡張構成オプション

このセクションでは、WebSphere Commerce とともに追加のソフトウェア・パッケージおよび拡張構成オプションを使用する方法を説明します。以下のトピックが扱われています。

- 63 ページの『第 9 章 IBM HTTP Server で SSL を使用可能にする』
- 65 ページの『第 10 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 69 ページの『第 11 章 WebSphere Application Server のセキュリティーを使用可能にする』

実動サーバーの場合は、13 ページの『Payment Manager のインストール』および 63 ページの『第 9 章 IBM HTTP Server で SSL を使用可能にする』の章を完了する必要があります。その他の章は、オプションとして必要に応じて実施できます。

第 9 章 IBM HTTP Server で SSL を使用可能にする

SSL はセキュリティー・プロトコルです。SSL は、クライアントとサーバーの間で転送されるデータがプライベートなものに保たれることを保証します。これにより、クライアントはサーバーの識別を認証し、サーバーはクライアントの識別を認証することができます。

デジタル証明書は、インターネットを介したセキュア・トランザクションに関係するサーバーとクライアントを認証する電子文書です。デジタル証明書の発行者を認証局 (CA) と呼びます。iSeries システムは、サーバーおよびクライアント証明書を発行するイントラネット環境において CA の役割を実行し、iSeries CA またはインターネット CA (VeriSign® など) のいずれかによって発行されたサーバー証明書の付いた、認証済みサーバーとして実行することができます。また、IBM HTTP Server for iSeries は Web サーバーとして、クライアント証明書を要求して SSL 対応クライアントの認証を入手するように構成できます。

IBM HTTP Server for iSeries で SSL を使用可能にする方法については、以下の Web アドレスを参照してください。

www.ibm.com/software/webservers/commerce/servers/lit-tech-os400.html

特に、「Hints and Tips」のセクションをご覧ください。

Payment Manager での SSL の使用

WebSphere Commerce インスタンスを作成した後でシステム証明書ストアを作成する場合、その作成ストアに対して Payment Manager インスタンスのアクセスと WebSphere Commerce インスタンスの両方を付与する必要があります。たとえば、以下のコマンドは、Payment Manager インスタンスに V5R1 システム上で必要なアクセスを付与します。

```
CHGAUT OBJ('/QIBM/UserData/ICSS/Cert/Server') USER(QPYMSVR) DTAAUT(*RX)
CHGAUT OBJ('/QIBM/UserData/ICSS/Cert/Server/DEFAULT.KDB') USER(QPYMSVR) DTAAUT(*R)
```

また、以下のコマンドは、WebSphere Commerce に V5R1 システム上で必要なアクセスを付与します。

```
CHGAUT OBJ('/QIBM/UserData/ICSS/Cert/Server') USER(QEJBSVR) DTAAUT(*RX)
CHGAUT OBJ('/QIBM/UserData/ICSS/Cert/Server/DEFAULT.KDB') USER(QEJBSVR) DTAAUT(*R)
```

リモート Payment Manager インスタンスを使用することを選択する場合、WebSphere Commerce インスタンスと Payment Manager インスタンスの両方を、デジタル証明書を発行するリモート認証局を承認するように構成する必要があります。2 つのリモート・アプリケーションの間で承認を確立する手順の概要は、次のとおりです。

1. WebSphere Commerce マシン上で、デジタル証明書マネージャーを使用して、サーバーの認証局をエクスポートします。
2. 証明書ファイルを Payment Manager マシンに転送します。

3. Payment Manager マシン上で、デジタル証明書マネージャーを使用して、WebSphere Commerce サーバーの認証局をインポートします。
4. Payment Manager アプリケーション・サーバーを、インポートした WebSphere Commerce サーバーの認証局を承認するように構成します。
5. Payment Manager マシン上で、デジタル証明書マネージャーを使用して、サーバーの認証局をエクスポートします。
6. 証明書ファイルを WebSphere Commerce マシンに転送します。
7. WebSphere Commerce マシン上で、デジタル証明書マネージャーを使用して、Payment Manager サーバーの認証局をインポートします。
8. WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーを、インポートした Payment Manager サーバーの認証局を承認するように構成します。

詳細については、以下の Web アドレスを参照し、「**Hints and Tips**」を調べてください。

www.ibm.com/software/webservers/commerce/servers/lit-tech-os400.html

第 10 章 複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成

WebSphere Commerce 5.4 は、複数の WebSphere Commerce インスタンスの作成をサポートしています。つまり、WebSphere Commerce を使用すると、それぞれの WebSphere Commerce インスタンスに異なるホスト名を使用しながら、2 つ以上の WebSphere Commerce インスタンスを同時に実行することができます。この場合、顧客は *host1.domain.com* および *host2.domain.com* にアクセスできます。この方法には、仮想ホスト名 の使用が関係しています。

注:

1. 以下の例は、*demo1*、*demo2*、*host1*、*host2*、*htdocs1*、および *htdocs2* を参照します。これらの例は 1 番目と 2 番目のインスタンスのパラメーター値を表しており、これらの値がインスタンス間で固有であることを示す目的があります。
2. 通常は操作可能な既存の WebSphere Commerce インスタンスがあるので、追加のインスタンスを作成するだけで済みます。既存のインスタンスがある場合、他のインスタンスを追加するためにそのインスタンスのパラメーター値を変更する必要はありません。オプションで、複数インスタンス環境の編成を改善するために、最初のインスタンスのパラメーターの一部を変更することもできます。たとえば、文書ルート・ディレクトリーを *...%htdocs* から *...%htdocs1* に変更して、最初のインスタンスに対応するようにすることができます。

重要

追加の WebSphere Commerce インスタンスを 1 つ作成するたびに、別個の固有マシンに Payment Manager をインストールして構成する必要があります。

仮想ホスト名を使用する複数インスタンス

このセクションでは、仮想ホスト名を使用して複数 WebSphere Commerce インスタンスを作成する方法を示しています。

前提条件

1. 通常は、インスタンスごとに 1 つのインターネット・プロトコル (IP) アドレス、さらにマシンのために 1 つの IP アドレスが必要となります。たとえば、2 つのインスタンスがある場合、通常は合計 3 つの IP アドレスが必要となります。これら 3 つの IP アドレスはネットワーク上で有効であり、関連するホスト名がドメイン・ネーム・システム (DNS) サーバーに存在しなければなりません。以下の例では、既存のインスタンスがあることを前提としており、追加のインスタンスを作成する方法を示しています。この例で、IP アドレスとホスト名は以下のとおりです。
 - *m.mm.mm.mmm*、ホスト名は *host1.domain.com* (既存)
 - *n.nn.nn.nnn*、ホスト名は *host2.domain.com* (追加のインスタンス)



- マシンの IP アドレスとホスト名をインスタンスの 1 つに使用することもできます。この場合、2 つのインスタンスのために 2 つの IP アドレスだけが必要になります。
- 複数のインスタンスが同一のホスト名を共用することはできません。インスタンスごとに固有のホスト名が必要です。

2. 各インスタンスのホスト名は、IP アドレスを分離するために完全に解決されなければなりません。たとえば、構成マネージャーを実行して複数インスタンスを作成できることを調べるために、`nslookup` コマンドを各インスタンスのホスト名と IP アドレスの両方で実行します。ホスト名は正しい IP アドレスに解決して、IP アドレスは正しいホスト名に解決するはずです。

```
nslookup host1.domain.com
nslookup m.mm.mm.mmm

nslookup host2.domain.com
nslookup n.nn.nn.nnn
```

3. 2 番目のインスタンスを作成する前に、IBM WebSphere 管理インスタンスが開始されていることを確認します。
4. 追加のインスタンスごとに、マシンのメモリーを 1.5 GB ずつ増やす必要があります。

複数インスタンスの作成

最初の WebSphere Commerce インスタンスを作成した場合であれば、27 ページの『第 6 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』の指示に従って、必要な追加のインスタンスを 1 つずつ作成できます。以下の表で、既存のインスタンスは**インスタンス 1** で表され、新規のインスタンスは**インスタンス 2** で表されます。既存のインスタンスの値を変更する必要はありません。この表は、新しいインスタンスの変更済みデフォルト値をリストしています。これらの値をインスタンスで使用したい実際の値 (インスタンス名、ホスト名、など) に置き換えてください。

構成マネージャーのフィールド	インスタンス 1	インスタンス 2
インスタンス - インスタンス名	<i>demo1</i>	<i>demo2</i>
インスタンス - インスタンス・ルート・パス	¥ instances¥demo1	¥ instances¥demo2
データベース - データベース名	<i>nodeName1.domain.com</i>	<i>nodeName1.domain.com</i>
Webserver - ホスト名	<i>host1.domain.com</i>	<i>host2.domain.com</i>
Webserver - 基本文書ルート (IBM HTTP Server 用)	¥ instances¥demo1¥web	¥ instances¥demo2¥web
Payment Manager - ホスト名	<i>host1.domain.com</i>	<i>host2.domain.com</i>

インスタンスの開始

WebSphere Commerce インスタンスが作成されると:

1. WebSphere Application Server 管理コンソールで以下のエントリが作成されていることを確認します。
 - demo1 - WebSphere Commerce Server
 - demo2 - WebSphere Commerce Server
 - demo1 - WebSphere Commerce DB2 DataSource
 - demo2 - WebSphere Commerce DB2 DataSource
 - demo1 - WebSphere Commerce DB2 JDBC Driver
 - demo2 - WebSphere Commerce DB2 JDBC Driver
 - default_host (demo1 に対応)
 - VH_demo2
2. インスタンスごとに Web サーバー・ホーム・ページをロードできることを確認してください (たとえば、<http://host1.domain.com> および <http://host2.domain.com>)。
3. インスタンスごとにソース Web サーバー・ホーム・ページをロードできることを確認してください (たとえば、<https://host1.domain.com> および <https://host2.domain.com>)。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールの各インスタンスを開始します。
5. 各インスタンスの WebSphere Commerce Accelerator をロードできることを確認してください。

第 11 章 WebSphere Application Server のセキュリティーを使用可能にする

この章では、WebSphere Application Server のセキュリティーを使用可能にする方法について説明します。 WebSphere Application Server のセキュリティーを使用可能にすると、すべての Enterprise JavaBean コンポーネントが何者かによってリモートで呼び出されることを防ぎます。

始める前に

セキュリティーを使用可能にする前に、セキュリティーが使用可能になった WebSphere Application Server がユーザー ID の妥当性を検査する方法を知る必要があります。 WebSphere Application Server は LDAP またはオペレーティング・システムのユーザー・レジストリーを WebSphere Application Server ユーザー・レジストリーとして使用できます。

LDAP ユーザー・レジストリーを使用してセキュリティーを使用可能にする

LDAP を WebSphere Application Server ユーザー・レジストリーとして使用しているときに WebSphere Application Server を使用可能にするには、システムにログインし、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理サーバーを開始して、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. コンソールで、以下のようにグローバル・セキュリティー設定値を変更します。
 - a. 「コンソール」メニューから、「**Security Center (セキュリティー・センター)**」を選択します。
 - b. 「一般」タブで、「**Enable Security (セキュリティーを使用可能にする)**」を選択します。
 - c. 「**Authentication (認証)**」タブで、「Lightweight Third Party Authentication (LTPA)」を選択します。 LTPA 設定を入力し、この機能を使用しない場合は「**Enable Single Sign On (単一サインオンを使用可能にする)**」チェック・ボックスのチェックを外します。使用しているディレクトリー・サーバーのタイプに応じて、以下のように「**LDAP Settings (LDAP 設定)**」タブに値を入力します。

表 2. SecureWay ユーザー

フィールド名	定義	サンプル値	備考
セキュリティー・サーバー ID	ユーザー ID	<i>user_ID</i>	<ul style="list-style-type: none"> これは LDAP 管理者にすることはできません。 cn=xxx として指定されているユーザーは使用しないでください。 このユーザーのオブジェクト・クラスが、「LDAP Advanced Properties (LDAP 拡張プロパティ)」ウィンドウの「User Filter (ユーザー・フィルター)」フィールドに指定されたオブジェクト・クラスと互換性があることを確認します。
セキュリティー・サーバー・パスワード	ユーザー・パスワード	<i>password</i>	
ディレクトリー・タイプ	LDAP サーバーのタイプ	SecureWay	
ホスト	LDAP サーバーのホスト名	<i>hostname.domain.com</i>	
ポート	LDAP サーバーが使用しているポート		このフィールドは不要です。
基本識別名	検索に使用される識別名	<i>o=ibm、c=us</i>	
バインド識別名	検索時にディレクトリーにバインドするための識別名		このフィールドは不要です。
バインド・パスワード	バインド識別名のパスワード		このフィールドは不要です。

- d. WebSphere Application Server 管理サーバーを再始動し、WebSphere Application Server 管理コンソールを再オープンします。
- e. 「**Role Mapping (役割マッピング)**」タブで、WCS appserver を選択し、「**Edit Mappings... (マッピングの編集...)**」ボタンをクリックします。
 - 1) 「WCSecurity Role (WCSecurity 役割)」を選択し、「**Select... (選択...)**」ボタンをクリックします。
 - 2) 「Select users/groups (ユーザー / グループの選択)」チェック・ボックスをチェックし、ステップ 2c (69 ページ) で入力したユーザー ID を追加します。

- f. 「終了」をクリックします。
3. 管理コンソールをクローズして、WebSphere Application Server 管理サーバーを停止してから、再始動します。この後は、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンするとき、セキュリティー・サーバー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。
4. WebSphere Commerce 構成マネージャーをオープンして、「Instances (インスタンス)」 > 「instance_name」 > 「インスタンス・プロパティー」 > 「セキュリティー」を選択し、「使用可能」チェック・ボックスをクリックします。ステップ 2c (69 ページ) で入力したユーザー名とパスワードを入力するよう促されます。「適用」をクリックして、構成マネージャーを終了します。
5. WebSphere Application Server 管理サーバーを停止してから、再始動します。

オペレーティング・システム・ユーザー・レジストリーを使用してセキュリティーを使用可能にする

オペレーティング・システムを WebSphere Application Server ユーザー・レジストリーとして使用しているときに WebSphere Application Server を使用可能にするには、システムに管理権限のあるユーザーとしてログインし、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールで、以下のようにグローバル・セキュリティー設定値を変更します。
 - a. 「コンソール」メニューから、「Security Center (セキュリティー・センター)」を選択します。
 - b. 「一般」タブで、「Enable Security (セキュリティーを使用可能にする)」チェック・ボックスを選択します。
2. 「Authentication (認証)」タブを選択し、「Local Operating System (ローカル・オペレーティング・システム)」ラジオ・ボタンを選択します。
3. 「Security Server ID (セキュリティー・サーバー ID)」フィールドにセキュリティー・サーバー ID を入力します。以下のようにユーザー名を入力します。

表 3.

フィールド名	サンプル値	備考
ユーザー ID	<i>user_ID</i>	
セキュリティー・サーバー・パスワード	<i>password</i>	これはログインの際に使用した、オペレーティング・システム管理権限のあるユーザーのパスワードです。

4. WebSphere Application Server 管理サーバーを再始動し、WebSphere Application Server 管理コンソールを再オープンします。
5. 「Role Mapping (役割マッピング)」タブで、WC エンタープライズ・アプリケーションを選択し、「Edit Mappings... (マッピングの編集...)」ボタンをクリックします。
 - a. 「WCSecurityRole」を選択し、「Select... (選択...)」ボタンをクリックします。
 - b. 「Select users/groups (ユーザー / グループの選択)」チェック・ボックスを選択し、ステップ 3 で使用したユーザー ID を「検索」フィールドに入力し

て、「検索」をクリックします。「Available Users/Groups (使用可能なユーザー / グループ)」リストからそのユーザーを選択し、「追加」をクリックして「Selected Users/Groups (選択したユーザー / グループ)」リストに追加します。次に、各パネルで「OK」をクリックし、セキュリティ・センターを終了します。

6. WebSphere Commerce 構成マネージャーをオープンし、「Instances List (インスタンス・リスト)」→「instance_name」→「インスタンス・プロパティ」→「セキュリティ」を選択し、「Enable Security (セキュリティを使用可能にする)」チェック・ボックスを選択します。認証モードの「オペレーティング・システム・ユーザー・レジストリ」を選択し、ステップ 3 (71 ページ) で入力したユーザー名とパスワードを入力します。「適用」をクリックして、構成マネージャーを終了します。
7. WebSphere Application Server 管理サーバーを停止してから、再始動します。この後は、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンするとき、セキュリティ・サーバー ID とパスワードの入力を求めるプロンプトが出されません。

WebSphere Commerce EJB セキュリティーを使用不可にする

WebSphere Commerce Business Edition を使用して、EJB セキュリティーを使用不可にすることができます。WebSphere Commerce EJB セキュリティーを使用不可にするには、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールを始動します。
2. 「コンソール」→「Security Center (セキュリティ・センター)」をクリックし、「一般」タブの「Enable Security (セキュリティを使用可能にする)」チェック・ボックスを選択解除します。
3. WebSphere Commerce 構成マネージャーをオープンして、「Instances List (インスタンス・リスト)」→「instance_name」→「インスタンス・プロパティ」→「セキュリティ」を選択し、「Enable Security (セキュリティを使用可能にする)」チェック・ボックスをクリアします。
4. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
5. WebSphere Application Server 管理サーバーを停止してから、再始動します。

WebSphere Commerce セキュリティー・デプロイメント・オプション

WebSphere Commerce は、さまざまなセキュリティー・デプロイメント構成をサポートしています。以下の表には、使用できるセキュリティー・デプロイメント・オプションが示されています。

表4. 単一マシンのセキュリティーのシナリオ

WebSphere Application Server セキュリティーが使用可能。	<ul style="list-style-type: none"> オペレーティング・システムを WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。 データベースを WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。
	<ul style="list-style-type: none"> LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。 LDAP を WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。
	<ul style="list-style-type: none"> LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。
WebSphere Application Server セキュリティーが使用不可、および WebSphere Commerce サイトがファイアウォールに守られている。	<ul style="list-style-type: none"> WebSphere Application Server レジストリーは不要。 データベースを WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。
	<ul style="list-style-type: none"> WebSphere Application Server レジストリーは不要。 LDAP を WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。

表5. 複数マシンのセキュリティーのシナリオ

WebSphere Application Server セキュリティーが使用可能。LDAP が常にデプロイされている。	<ul style="list-style-type: none"> LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。 LDAP を WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。
	<ul style="list-style-type: none"> LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。 データベースを WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。 LDAP をセットアップし、LDAP レジストリー中に 1 つの管理エントリーを組み込む必要がある。

表 5. 複数マシンのセキュリティーのシナリオ (続き)

WebSphere Application Server セキュリティーが使用不可、および WebSphere Commerce サイトがファイアウォールに守られている。	<ul style="list-style-type: none"> • データベースを WebSphere Commerce レジストリーとして使用する。 • WebSphere Application Server レジストリーは不要。 • 単一サインオンはサポートされない。
	<ul style="list-style-type: none"> • LDAP を WebSphere Application Server レジストリーとして使用する。 • WebSphere Application Server レジストリーは不要。

注: ファイアウォールの内部で WebSphere Commerce サイトを操作する場合は、WebSphere Application Server セキュリティーを使用不可にすることができます。WebSphere Application Server セキュリティーを使用不可にするのは、ファイアウォールの内部で有害なアプリケーションが稼働していないことが確認されている場合に限る必要があります。

第 4 部 付録

付録 A. コンポーネントの開始および停止

インストール・プロセス中のさまざまな時点で、WebSphere Commerce のコンポーネントを開始および停止するように求められます。以下の説明は、コンポーネントを正常に開始および停止する方法を示しています。

注: インスタンスを初めて開始するときには、開始までに長い時間がかかります。この遅延は、Java プログラムに関する情報のキャッシュによるものです。遅延が長引くとしても、それ以降の試行では始動時間が改善されます。

WebSphere Commerce インスタンスの開始

WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、次の 2 つの方法があります。OS/400 システム・コマンドを実行するか、WebSphere 管理コンソールを使用します。それぞれの方法の説明が以下にあります。

- OS/400 システム・コマンドを使用して WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、以下のコマンドを実行します (1 行で指定)。

```
STRWCSSVR INSTNAME(instance_name)
```

ここで、

instance_name

構成マネージャーで指定された WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

注:

1. 管理サーバーのセキュリティーを使用可能にする場合、79 ページの『セキュア環境での STRWCSSVR および ENDWCSSVR の使用』のステップを必ず完了しておいてください。
2. セキュリティーが使用可能になっている場合、WebSphere Commerce インスタンスを開始する際に以下のエラーが表示されます。

```
Unexpected Java Exception: org.omg.CORBA.NO_PERMISSION: Failed mutual authentication handshake. Session does not exist in the session table
```

sas.server.props ファイルの com.ibm.CORBA.sessionGCinterval 設定を調整する必要があります。デフォルトでは、5 分に設定されます。

com.ibm.CORBA.sessionGCinterval プロパティーがファイルにリストされていない場合は、ファイルの末尾に追加してください。詳細については、以下の Web サイトを参照してください。

```
publib.boulder.ibm.com/was400/40/AE/english/docs/seccapp.html
```

- WebSphere 管理コンソールを使用して WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログインします。
2. OS/400 コマンド行で、以下のコマンドを入力してください。

```
WRKACTJOB SBS(QEJBADV4)
```

3. そのサブシステムにジョブがない場合は、OS/400 コマンド行から以下を入力して、QEJBADMIN と QEJBMNTR が開始されるのを待ちます。

```
STRSBS SBS(QEJBADV4/QEJBADV4)
```

これによって、サブシステムが終了したときに実行されていたすべての WebSphere Application Server インスタンスも開始されます。

注: このコマンドは、デフォルトの WebSphere Admin サーバーのみ開始します。 WebSphere Commerce インスタンスが異なる WebSphere Admin サーバーにおいて実行している場合、上記のコマンドの実行後に、WebSphere Admin サーバーが開始されていることを確認してください。詳細については、以下の Web アドレスを参照してください。

```
publib.boulder.ibm.com/was400/40/AE/english/docs/admmwas.html
```

4. QEJBADV4 がすでにあるにもかかわらず、WebSphere Application Server インスタンスが QEJBADV4 の下にリストされていない場合は、以下のようにして、WebSphere Application Server インスタンスを開始する必要があります。

iSeries コマンド行から WebSphere Application Server インスタンスを開始する

以下のコマンドを 1 行で入力します。

```
SBMJOB CMD(QSYS/CALL PGM(QEJBADV4/QEJBMNTR) PARM('-p'  
'/QIBM/UserData/WebASAdv4/WAS_instance/  
properties/admin.properties')) JOB(MONITOR_JOB_NAME)  
JOBQ(QEJBADV4/QEJBJOBQ) JOBQ(QEJBADV4/QEJBJOBQ) USER(QEJB)
```

ここで、*WAS_instance* は WebSphere Application Server インスタンス名、*MONITOR_JOB_NAME* はモニター・ジョブ名で、これは 10 文字以下でなければなりません。

QSHHELL から WebSphere Application Server インスタンスを開始する

以下のコマンドを入力します。

- a. STRQSH
- b. /QIBM/ProdData/WebASADV4/bin/strwasinst -instance
WAS_instance

ここで、*WAS_instance* は WebSphere Application Server インスタンス名です。

5. 以下のようにして、WebSphere 管理コンソールから WebSphere Commerce インスタンスを開始します。

- a. Windows ワークステーションで、MS-DOS コマンド・ウィンドウをオープンして、以下のコマンドを実行します。

```
AdminClient host_name port_number
```

ここで、*host_name* は、iSeries WebSphere Commerce マシンの完全修飾ホスト名です (大文字小文字の区別があります)。*port_number* は、WebSphere Application Server に割り当てられたポート番号です。

- b. 「WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)」を拡張表示します。
- c. 「Nodes (ノード)」を拡張表示します。
- d. HOST_NAME を拡張表示します。

- e. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
- f. 「*instance_name* - **WebSphere Commerce Server**」を右マウス・ボタン・クリックし、「**開始**」を選択します。

WebSphere Commerce マシンの実行速度が遅い場合は、WebSphere Commerce インスタンスを開始できるように、Ping timeout および Ping initial timeout の値を大きくしてください。これを行うには、以下のようになります。

1. Windows ワークステーションで、MS-DOS コマンド・ウィンドウをオープンして、以下のコマンドを実行します。
`AdminClient host_name port_number`
2. 「*HOST_NAME*」を拡張表示します。
3. 「*instance_name* - **WebSphere Commerce Server**」を選択して、「**拡張**」タブを選択します。
4. Ping timeout および Ping initial timeout の値を、マシンの速度に応じて大きくします。デフォルト値は、Ping timeout の場合が 100000 秒で、Ping initial timeout の場合が 150000 秒です。
5. 「**適用**」をクリックします。

セキュア環境での STRWCSSVR および ENDWCSSVR の使用

管理サーバーのセキュリティーが使用可能になっているときに STRWCSSVR および ENDWCSSVR を使用するには、以下のステップを実行する必要があります。

1. `sas.client.props` プロパティ・ファイルを編集用にオープンします。このファイルは、管理サーバーのインスタンス・ルートの `properties` サブディレクトリにあります。デフォルトの管理サーバーの場合、このファイルは `/QIBM/UserData/WebASAdv4/default/properties` ディレクトリにあります。
2. 以下のプロパティ値のペアを編集または追加します。

```
com.ibm.CORBA.loginSource=properties
com.ibm.CORBA.loginuserid=user_id
com.ibm.CORBA.principalName=domain/user_id
com.ibm.CORBA.loginPassword=password
```

ここで、

user_id

ユーザー ID です。

domain

ドメイン・ネームです。

password

指定したユーザー ID のパスワードです。パスワードは、暗号化されていない適切な値に設定してください。

3. `PropFilePasswordEncoder` ユーティリティーを使用してパスワードをエンコードします。
 - a. OS/400 コマンド行に `STRQSH` を入力して、QShell 環境を開始します。
 - b. 以下のコマンドを 1 行で入力します。

```
/QIBM/ProdData/WebASAdv4/bin/PropFilePasswordEncoder
/QIBM/UserData/WebASAdv4/wasinstanceName/properties/sas.client.props -SAS
```

admin.properties ファイルのエンコード・アルゴリズムが見つかります。XOR がデフォルト設定です。OS/400 パスワード・エンコード・アルゴリズムを使用する場合、詳細については以下の Web サイトを参照してください。

publib.boulder.ibm.com/was400/40/AE/english/docs/secpmgt.html

セキュア環境の構成の詳細については、69 ページの『第 11 章 WebSphere Application Server のセキュリティーを使用可能にする』を参照してください。

WebSphere Commerce インスタンスの停止

WebSphere Commerce インスタンスを停止するには、次の 2 つの方法があります。OS/400 システム・コマンドを実行するか、WebSphere 管理コンソールを使用します。それぞれの方法の説明が以下にあります。

- OS/400 システム・コマンドを使用して WebSphere Commerce インスタンスを開始するには、以下のコマンドを実行します。

```
ENDWCSSVR INSTNAME(instance_name)
```

ここで、

instance_name

構成マネージャーで指定された WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

管理サーバーのセキュリティーを使用可能にする場合、79 ページの『セキュア環境での STRWCSSVR および ENDWCSSVR の使用』のステップを必ず完了しておいてください。

- WebSphere 管理コンソールを使用して WebSphere Commerce インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. Windows ワークステーションで、MS-DOS コマンド・ウィンドウをオープンして、以下のコマンドを実行します。

```
AdminClient host_name port_number
```

ここで、*host_name* は、iSeries WebSphere Commerce マシンの完全修飾ホスト名です (大文字小文字の区別があります)。*port_number* は、WebSphere Application Server に割り当てられたポート番号です。

2. HOST_NAME を拡張表示します。
3. 「*instance_name* - WebSphere Commerce Server」を右マウス・ボタン・クリックし、「停止」を選択します。
4. サーバーが正常に停止したことを示すメッセージが表示されます。iSeries システム上の QEJBADV4 サブシステムの下には、WebSphere Commerce インスタンスがリストされなくなります。

IBM HTTP Server の開始および停止

IBM HTTP Server インスタンスの開始

WebSphere Commerce インスタンスに関連した 2 つの IBM HTTP Server インスタンスがあります。1 つはストア HTTP サーバーと言い、もう 1 つはツール HTTP

サーバーと言います。この 2 つを区別すれば、潜在的なセキュリティー上の問題を取り除くために、ツール HTTP サーバーへのアクセスを使用不可にすることができます。

それぞれの IBM HTTP Server インスタンスを開始するには、コマンド行または Web ブラウザーを使用できます。

以下の説明で、*web_server_instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前と同じです。

コマンド行から IBM HTTP Server ストア・インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries にログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(web_server_instance_name)
```

コマンド行から IBM HTTP Server ツール・インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries にログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(web_server_instance_nameT)
```

注: ツール HTTP サーバー・インスタンスを開始することを示すために、*web_server_instance_name* の末尾に T を付加する必要があります。

Web ブラウザーからいずれかの IBM HTTP Server インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. OS/400 コマンド行に以下を入力して、HTTP Administrator サーバー・インスタンスが実行中であることを確認します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

サブシステムに ADMIN ジョブがあることを確認してください。HTTP Administrator サーバー・インスタンスが実行中でない場合、OS/400 コマンド行に以下を入力して開始します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

2. HTTP Administrator サーバー・インスタンスが開始したら、以下の URL に進みます。

```
https://host_name:2010
```

ここで、2010 は Web 構成サーバー・ポートです。非セキュア HTTP Administrator サーバーをポート 2001 で実行している場合、この URL を以下の URL で置き換えます。

```
http://host_name:2001
```

非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

3. 「IBM HTTP Server for iSeries」をクリックします。

4. 「**Configuration and Administration (構成および管理)**」リンクをクリックします。
5. 「**Server Instances (サーバー・インスタンス)**」を選択します。
6. 「**Work with server instances (サーバー・インスタンスでの作業)**」を選択します。
7. ドロップダウン・リストから、開始する Web サーバー・インスタンスを選択し、「**開始**」をクリックします。

注: Tools HTTP server インスタンスでは、`web_server_instance_name` に **T** が付加されます。

8. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下の Web サーバー・インスタンスのエントリーと、**User** ヘッダーの下の QTMHHTTP のエントリーを見つけます。

IBM HTTP Web サーバー・インスタンスの停止

IBM HTTP Web サーバー・インスタンスを停止するには、コマンド行または Web ブラウザーを使用できます。

以下の説明で、`web_server_instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前と同じです。

コマンド行からストア HTTP サーバー・インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(web_server_instance_name)
```

コマンド行からツール HTTP サーバー・インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(web_server_instance_nameT)
```

注: ツール HTTP サーバー・インスタンスを開始することを示すために、`web_server_instance_name` の末尾に **T** を付加する必要があります。

Web ブラウザーからいずれかのインスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. 以下の URL を入力します。

```
https://host_name:2010
```

注: 非セキュア HTTP Administrator サーバーをポート 2001 で実行している場合、この URL を以下の URL で置き換えます。

`http://host_name:2001`

非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

2. 「**IBM HTTP Server for iSeries**」をクリックします。
3. 「**Configuration and Administration (構成および管理)**」リンクをクリックします。
4. 「**Server instances (サーバー・インスタンス)**」を選択します。
5. 「**Work with server instances (サーバー・インスタンスでの作業)**」を選択します。
6. ドロップダウン・リストから、停止する Web サーバー・インスタンスを選択し、「**停止**」をクリックします。

注: Tools HTTP server インスタンスでは、`web_server_instance_name` に `T` が付加されます。

7. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に Web サーバー・インスタンスのエントリがないことと、**User** ヘッダーの下に QTMHHTTP がいないことを確認します。

IBM HTTP administrator の開始および停止

HTTP Administrator サーバー・インスタンスを開始するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries にログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
STRTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

3. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTSPVR)
```

サーバーが正常に開始されている場合、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に **ADMIN** と、**User** ヘッダーの下に QTMHHTTP があります。

HTTP Administrator サーバーのポート番号は 2010 です。

注: さらに、HTTP Administrator サーバー・インスタンスの非セキュア接続用にポート 2001 も使用できます。非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

HTTP Administrator サーバー・インスタンスを停止するには、以下のようになります。

1. インスタンス・ユーザー・プロファイルを使用して、iSeries サーバーにログオンします。
2. コマンド行で、以下を入力します。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ADMIN)
```

3. 確認するには、OS/400 コマンド行に以下を入力します。

```
WRKACTJOB SBS(QHTTPSVR)
```

そして、**Subsystem/Job** ヘッダーの下に ADMIN のエントリーがないことと、**User** ヘッダーの下に QTMHTTP がないことを確認します。

HTTP Administrator サーバーのポート番号は 2010 です。

注: さらに、HTTP Administrator サーバー・インスタンスの非セキュア接続用にポート 2001 も使用できます。非セキュア・ポートを使用する場合、パスワードおよびその他の情報は暗号化されません。

Payment Manager の開始および停止

Payment Manager を開始するには、『Payment Manager Engine の開始』の説明に従って Payment Engine を開始します。

Payment Manager Engine の開始

Payment Manager Engine を開始するには、次の 2 つの方法があります。それらは以下のとおりです。

「OS/400 Tasks (OS/400 タスク)」ページの使用

1. URL フィールドに `hostname:2001/` と入力して、Web ブラウザーから「OS/400 Tasks (OS/400 タスク)」ページにアクセスします。「Tasks (タスク)」ページにアクセスするには、IBM HTTP Administrator サーバー・インスタンスが開始されていなければなりません。
2. 「IBM WebSphere Payment Manager for AS/400」を選択します。
3. ドロップダウン・メニューから Payment Manager インスタンスを選択します。
4. 「Start/End (開始 / 終了)」を選択します。
5. 要求があれば、Payment Manager インスタンス・パスワードを入力して、「開始」をクリックします。

OS/400 コマンド行の使用

STRPYMMGR コマンドを使用して Payment Manager を開始します。

Payment Manager Engine が開始されると、対応する IBM HTTP Server および WebSphere Payment Manager Application Server も開始されます。これらのプロセスがアクティブになっていることを調べるには、アクティブ・ジョブの処理 (**WRKACTJOB**) コマンドを発行します。

- Payment Manager Engine は、Payment Manager インスタンス名を持つジョブとして QSYSWRK サブシステムで実行します。このジョブは、Payment Manager インスタンスが正常に開始されていると、自動的に終了します。
- IBM HTTP Server は、Payment Manager インスタンス名を持つ複数のジョブとして QHTTPSVR サブシステムで実行します。
- WebSphere Payment Manager Application Server は、PYM_ という名前を持つジョブとして QEJBADV4 サブシステムで実行します。

Payment Manager ユーザー・インターフェースのアクセス

Payment Manager Engine および WebSphere Payment Manager Application Server を開始した後、以下のようにして Payment Manager ユーザー・インターフェースにアクセスします。

1. 以下の Web アドレスに進みます。

`http://host_name/PaymentManager/`

ここで、*host_name* は Payment Manager インスタンス・ホスト名です。

2. Payment Manager のログオン・ウィンドウで、Payment Manager 管理者のユーザー ID およびパスワードを入力して、「OK」をクリックします。デフォルトのユーザー ID およびパスワードは、どちらも `wcsadmin` です。

Payment Manager ユーザー ID の作成の詳細については、以下のいずれかを参照してください。

- WCSRealm を使用する場合は、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプを参照してください。WCSRealm を使用するの、デフォルトの Payment Manager 管理者のユーザー ID が `wcsadmin` の場合です。
- PSOS400Realm を使用する場合は、Payment Manager 管理者ガイドを参照してください。PSOS400Realm を使用するの、デフォルトの Payment Manager 管理者のユーザー ID が `QPYMADM` の場合です。

ヒント: Payment Manager ユーザー・インターフェース機能のサブセットに WebSphere Commerce 管理コンソールからアクセスすることもできます。

Payment Manager の停止

Payment Manager を停止するには、次の 2 つの方法があります。それらは以下のとおりです。

「OS/400 Tasks (OS/400 タスク)」ページの使用

1. 「iSeries Tasks (iSeries タスク)」ページにアクセスします。
2. 「Payment Manager for iSeries Tasks (Payment Manager for iSeries Tasks タスク)」 Web ページを選択します。
3. ドロップダウン・メニューから Payment Manager インスタンスを選択します。
4. 「Start/End (開始 / 終了)」を選択します。
5. 要求があれば、パスワードを入力して、「終了」をクリックします。

OS/400 コマンド行の使用

`ENDPYMMGR` コマンドを使用して Payment Manager を停止します。

前述の 2 つの方法で、WebSphere Payment Manager Application Server は停止します。IBM HTTP Server の場合は、他のアプリケーションが同じ HTTP サーバーを使用していることがあるため、停止しません。

WebSphere Application Server を使用した Payment Manager サブレットの停止

WebSphere Application Server 4.0 を使用するとき、WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止することによって、すべてのサブレットを停止できます。WebSphere Payment Manager アプリケーション・サーバーを停止するには、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server Administration Client に移動します。
2. 「**WPM** *instance_name* **WebSphere Payment Manager**」を選択します。
3. アプリケーション・サーバーを右マウス・ボタン・クリックし、「**停止**」を選択します。
4. Administration Client を終了します。

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール

WebSphere Commerce のインストールにおいて問題が生じた場合、1 つまたは複数のコンポーネントをアンインストールしてやり直す場合があります。この付録では、WebSphere Commerce の各コンポーネントをアンインストールする方法と、再インストール・プロセスのガイダンスを示します。

WebSphere Commerce のアンインストール

WebSphere Commerce をアンインストールするには、以下のようになります。

1. WebSphere Commerce をアンインストールしてからそれを再インストールする場合、以前に作成したストア用のユーザー・データが入っているすべてのディレクトリーをバックアップします。
2. 80 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの停止』で説明されているように、WebSphere Commerce を停止します。
3. *QSECOFR 権限を持つユーザー ID を使用して iSeries サーバーにログオンした場合、以下の構文を使ってライセンス・プログラムの削除 (DLTLICPGM) コマンドを入力します。

```
DLTLICPGM LICPGM(5733WC5)
```
4. すべてのユーザー・データの除去を継続するには、89 ページの『付録 C. WebSphere Commerce インスタンスの削除』を参照してください。

Payment Manager のアンインストール

IBM Payment Manager 3.1.2 をアンインストールするには、*IBM WebSphere Payment Manager 管理者ガイド* を参照してください。この資料の詳しい場所については、96 ページの『Payment Manager 情報』を参照してください。

WebSphere Commerce とそのコンポーネントの再インストール

WebSphere Commerce パッケージ全体を再インストールする場合は、1 ページの『第 1 部 WebSphere Commerce 5.4 のインストール』の指示に従ってください。

WebSphere Commerce の一部を再インストールする場合、1 ページの『第 1 部 WebSphere Commerce 5.4 のインストール』の該当する章を参照してください。しかし、以下の追加指示に従う必要があります。

- WebSphere Commerce インストール・プログラムによってすべてのコンポーネントをインストールします。これを行うには、WebSphere Commerce Professional Edition CD、WebSphere Commerce Business Edition CD を挿入し、`setup.exe` をダブルクリックします。
- アンインストールしたいすべてのコンポーネントをアンインストールしてから、それらすべてを再インストールします (コンポーネントを 1 つずつアンインストールしてから再インストールするものではありません)。

- WebSphere Application Server をアンインストールして再インストールしなければ、Web サーバーをアンインストールして再インストールすることはできません。
- 27 ページの『第 6 章 構成マネージャーによるインスタンスの作成または変更』の指示に従って、インスタンスを削除してから再作成する必要があります。

付録 C. WebSphere Commerce インスタンスの削除

注:

1. すべてのステップは、以下に説明する順序で実行しなければなりません。さらに、ステップ 10 (インスタンス・ユーザー・プロファイルの削除) は、他のいずれかのステップと同時に実行しないでください。このステップは最後に実行しなければなりません。
2. Payment Manager インスタンスを削除するには、91 ページの『Payment Manager インスタンスの削除』を参照してください。Payment Manager インスタンスの名前が WebSphere Commerce インスタンスの名前と同じ場合、必ず Payment Manager インスタンスを削除してから、WebSphere Commerce インスタンス・ライブラリーを削除してください。

WebSphere Commerce をアンインストールした後で残りのユーザー・データをクリーンアップするには、以下のようにします。

1. エンタープライズ・アプリケーションを除去します。
 - a. 以下のようにして、WebSphere Application Server 管理コンソールを立ち上げます。
 - 1) Windows マシンで、以下の DOS コマンドを実行します。

```
AdminClient host_name port_number
```
 - b. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を拡張表示します。
 - c. 「**Enterprise Applications (エンタープライズ・アプリケーション)**」を拡張表示します。
 - d. 「**WC Enterprise Application (WC エンタープライズ・アプリケーション) - instance_name**」を右マウス・ボタン・クリックします。
 - e. 「**除去**」を選択します。
 - f. アプリケーションを保管し、後で使用するためにそれをエクスポートするには、「はい」をクリックします。その他の場合は、「いいえ」をクリックします。
 - g. アプリケーションを除去するには、「はい」をクリックします。
2. アプリケーション・サーバーを除去します。
 - a. 以下のようにして、WebSphere Application Server 管理コンソールを立ち上げます。
 - 1) Windows マシンで、以下の DOS コマンドを実行します。

```
AdminClient host_name port_number
```
 - b. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
 - c. ホスト名を拡張表示します。
 - d. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
 - e. 「**instance_name - WebSphere Commerce Server**」を右マウス・ボタン・クリックし、「**除去**」を選択します。

- f. アプリケーション・サーバーを除去するには、「はい」をクリックします。
3. データ・ソースを除去します。
 - a. 以下のようにして、WebSphere Application Server 管理コンソールを立ち上げます。
 - 1) Windows マシンで、以下の DOS コマンドを実行します。


```
AdminClient host_name port_number
```
 - b. 「**Resources (リソース)**」を拡張表示します。
 - c. 「**データ・ソース**」を拡張表示します。
 - d. 「*instance_name* **WebSphere Commerce DB2 JDBC Driver (WebSphere Commerce DB2 JDBC ドライバー)**」を拡張表示します。
 - e. 「**データ・ソース**」をクリックします。
 - f. 「*instance_name* **WebSphere Commerce DataSource (WebSphere Commerce データ・ソース)**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**除去**」を選択します。
 - g. データ・ソースを除去するには、「はい」をクリックします。
 - h. 「*instance_name* **WebSphere Commerce DB2 JDBC Driver (WebSphere Commerce DB2 JDBC ドライバー)**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**除去**」を選択します。
 - i. JDBC ドライバーを除去するには、「はい」をクリックします。
 4. 仮想ホストを除去します。
 - a. 以下のようにして、WebSphere Application Server 管理コンソールを立ち上げます。
 - 1) Windows マシンで、以下の DOS コマンドを実行します。


```
AdminClient host_name port_number
```
 - b. 「**Virtual Hosts (仮想ホスト)**」をクリックします。
 - c. 「**VH_instance_name**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**除去**」を選択します。
 - d. この仮想ホストを除去するには、「はい」をクリックします。
 - e. 「**VH_instance_name_tools**」を右マウス・ボタン・クリックして、「**除去**」を選択します。
 - f. この仮想ホストを除去するには、「はい」をクリックします。
 5. 以下のようにして、構成マネージャーを使用して Commerce Suite インスタンスを削除します。
 - a. 構成マネージャーをオープンします。
 - b. ホスト名を拡張表示してから、「**インスタンス・リスト**」を拡張表示します。
 - c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタン・クリックして、「**削除**」をクリックします。
 6. 以下の SQL ステートメントを実行して、インスタンス・データベース・ライブラリーを削除します。


```
drop collection instance_name
```


コレクションを削除しようとして、受信側の接続時にそれを削除できないというメッセージを受け取る場合は、以下のコマンドを試行します。

```
ENDJRNP FILE(*ALL) JRN(instance_name/QSQJRN)
```

7. HTTP エントリーを削除します。以下の 2 つのコマンドを使用して、インスタンスに対応するメンバーを削除します。

```
WRKMBRPDM QUSRSYS/QATMHTTPC  
WRKMBRPDM QUSRSYS/QATMHINSTC
```

8. IFS で /QIBM/UserData/WebCommerce/Instance/*instance_name* ディレクトリーと、その内容をすべて削除します。
9. /QIBM/UserData/WebASAdv4/*WAS_instance_name/node/* の *Commerce_instance_name -_WebSphere_Commerce_Server* フォルダー、および /QIBM/UserData/WebASAdv4/*WAS_instance_name/installedApps/* の *WC_Enterprise_App_Commerce_instance_name.ear* フォルダーを削除します。ここで、*Commerce_instance_name* は WebSphere Commerce のインスタンス名、*WAS_instance_name* は WebSphere Application Server のインスタンス名 (デフォルト・サーバーを使用する場合はデフォルトです)、さらに *node* はノード名です。
10. 以下のコマンドを入力して、インスタンス・ユーザー・プロファイルを削除します。

```
DLTUSRPRF USRPRF(instance_name) OWNBJOPT(*DLT)
```

Payment Manager インスタンスの削除

注: WebSphere Admin ジョブがアクティブになっており、要求を受け入れる用意ができることを確認してください。QEJBADV4 サブシステムが始動すると、WebSphere Admin ジョブが開始されます。CL コマンド STRSBS QEJBADV4/QEJBADV4 を使用してサブシステムを始動し、ジョブ・ログで QEJBADMIN ジョブを調べます。ジョブがアクティブになっており、要求を受け入れる用意ができている場合、そのジョブ・ログにはメッセージ EJB0106 "WebSphere administration server QEJBADMIN ready" が含まれています。

1. Payment Manager インスタンスが実行している場合、84 ページの『Payment Manager の開始および停止』の説明に従ってそれを終了します。
2. **DLTPYMMGR** コマンドを使用して、Payment Manager インスタンスを削除します。このコマンドにより、データベース・テーブルと構成データが削除されます。しかし、インスタンス・ライブラリーは削除されません。インスタンス・ライブラリーに他のアプリケーション (たとえば、WebSphere Commerce インスタンス) で使用されるデータベース・テーブルが含まれていない場合、**DLTLIB** コマンドを使用してインスタンス・ライブラリーを削除します。同じ Payment Manager インスタンスを再作成する前には、インスタンス・ライブラリーを削除する必要はありません。

付録 D. トラブルシューティング

この付録は以下の 2 つのセクションに分かれています。

- ログ・ファイルとその使用法
- 特定のトラブルシューティング・ステップ
- ダウンロード可能なツール

ダウンロード可能なツール

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker (IC Checker) は、ダウンロード可能なスタンドアロンの問題判別ツールです。これを使用することによってユーザーは、WebSphere Commerce のインストールと構成作業を検証できます。IC Checker は構成データとログを収集し、シンプルなエラー・チェックを実行します。以下に、WebSphere Commerce IC Checker についての説明を示します。

- 現在サポートされている製品は、WebSphere Commerce Suite 5.1 Start と Pro、WebSphere Commerce 5.1 Business Edition、および WebSphere Commerce 5.4 Pro と Business Edition です。
- 現在サポートされているプラットフォームは、Windows NT 4.0 および Windows 2000 です。
- ツールは、以下の URL にアクセスしてオンラインでダウンロードすることができます。

▶ Business

www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats_new_support.html
www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/support-tools.html

▶ Professional

www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats_new_support.html
www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/support-tools.html

ログ・ファイル

WebSphere Commerce では以下のログが生成されます。

WASConfig.log

/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs ディレクトリにあります。このログには、WebSphere Commerce エンティティ Bean のインポートやデータ・ソースの作成などの、WebSphere Application Server アクションが記録されます。

wcsconfig.log

/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/ ディレクトリーにあります。このログには、構成マネージャーのアクションが記録されます。このログの詳細レベルは、構成マネージャーのメニュー・オプションを使用して変更できます。

messages.txt

/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/ IFS ディレクトリーにあります。このログには、 WebSphere Commerce データベースへの移植処理に関する情報が入ります。

RESWCSID.txt

/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/ IFS ディレクトリーにあります。このログには、 WebSphere Commerce データベースへの移植処理に関する情報が入ります。

Schema.log

/QIBM/UserData/WebCommerce/instances/*instance_name*/logs/ IFS ディレクトリーにあります。このファイルには、 WebSphere Commerce データベース作成に関する情報が入ります。 schema.err ログ・ファイルがあつてはなりません。

注: ここにリストされているパスはデフォルトの位置です。インスタンス作成中にこれとは別の位置を指定した場合、ログ・ファイルはその位置に作成されます。

トラブルシューティング

現在、WebSphere Commerce for iSeries 400 に関するトラブルシューティング項目はありません。

付録 E. 詳細情報の入手方法

WebSphere Commerce システムとそのコンポーネントに関するさらに詳しい情報は、さまざまな形式でさまざまな情報源から入手できます。この部分では、利用できる情報と利用方法を示します。

WebSphere Commerce 情報

WebSphere Commerce の情報源は、以下のとおりです。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce PDF ファイル
- WebSphere Commerce Web サイト

オンライン・ヘルプの使用

WebSphere Commerce のオンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce をインストールしたら、以下の URL を入力することによってオンライン情報のトピックにアクセスできます。

`http://host_name/wchelp/`

host_name は、WebSphere Commerce のインストール先マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

印刷可能な文書の調べ方

一部のオンライン情報は、PDF ファイルの形式で自分のシステムで利用することもできます。それは、Adobe® Acrobat® Reader を使うことによって表示および印刷できます。Acrobat Reader は、Adobe Web サイトから無料でダウンロードできます。その Web アドレスは以下のとおりです。

`http://www.adobe.com`

WebSphere Commerce Web サイトの閲覧

WebSphere Commerce 製品に関する情報は、WebSphere Commerce Web サイトから入手できます。

`http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/`

このマニュアルのコピー、およびこのマニュアルの更新済みバージョンは、WebSphere Commerce Web サイトの Library のセクションから PDF ファイルの形式で入手できます。さらに、この Web サイトから、新規および更新された文書を入手することができます。

IBM HTTP Server 情報

IBM HTTP Server の情報は、以下の Web アドレスで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は、HTML 形式、PDF ファイル、あるいはその両方で入手できます。

Payment Manager 情報

Payment Manager の資料は、Payment Manager のインストール後に「Payment Manager Tasks」の Web ページから入手できます。これは、http://host_name:2001 にある「AS/400 Tasks Page」からアクセスできます (host_name は、AS/400 システムの TCP/IP ホスト名)。ナビゲーション・フレームのリンク名は、「ドキュメンテーション」です。

Payment Manager に関する追加情報は、以下の Payment Manager Web サイトの「Library」リンクから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/payment>

Payment Manager のドキュメンテーションとしては、以下のものを利用できます。

- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* インストール・ガイドの PDF ファイル (paymgrinstall.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* 管理者ガイドの PDF ファイル (paymgradmin.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* プログラマーのガイドとリファレンスの PDF ファイル (paymgrprog.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for SET™* 補足の PDF ファイル (paymgrset.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for VisaNet Supplement* の PDF ファイル (paymgrvisanet.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for CyberCash* 補足の PDF ファイル (paymgrcyber.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for BankServACH Supplement* の PDF ファイル (paymgrbank.pdf)
- Payment Manager の README ファイル、HTML 形式 (readme.framework.html)
- IBM Cassette for SET の README ファイル、HTML 形式 (readme.set.html)
- IBM Cassette for VisaNet の README ファイル、HTML 形式 (readme.visanet.html)
- IBM Cassette for CyberCash の README ファイル、HTML 形式 (readme.cybercash.html)
- IBM Cassette for BankServACH の README ファイル、HTML 形式 (readme.bankservach.html)

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの「*Secure Electronic Transactions*」セクションにも、Payment Manager に関する情報が含まれています。

WebSphere Application Server

WebSphere Application Server に関する情報は、WebSphere Application Server Web サイトから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv>

DB2 Universal Database 情報

DB2 の文書は、以下の Web アドレスで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2>

その他の IBM 資料

ほとんどの IBM 資料は IBM 特約店あるいは営業担当員から購入することができます。

付録 F. プログラム仕様と所定稼働環境

このバージョンの WebSphere Commerce は、以下の操作環境をサポートします。

- OS/400 for iSeries V5R1

WebSphere Commerce 5.4 には、以下のコンポーネントが含まれています。

WebSphere Commerce Server

WebSphere Commerce Server は、e-commerce ソリューション内のストアおよびコマース関連機能を処理します。以下のコンポーネントによって機能が提供されています。

- ツール (ストア・サービス、ローダー・パッケージ、Commerce Accelerator、管理コンソール)
- サブシステム (カタログ、メンバー、ネゴシエーション、オーダー)
- 商品アドバイザー
- 共通サーバー・ランタイム
- システム管理
- メッセージング・サービス
- WebSphere Application Server

ストア・サービス

ストア・サービスは、ストアの特定の運用機能を作成したり、カスタマイズしたり保守するための中心点を提供します。

ローダー・パッケージ

ローダー・パッケージを使用すると、商品情報を ASCII および XML ファイルで初期ロードできます。また、全体情報、または部分的な情報のインクリメンタル更新もできます。オンライン・カタログを更新するには、このツールを使用します。

WebSphere Commerce Accelerator

ストア・データおよび商品データが作成されたら、それを WebSphere Commerce Accelerator で使用して、ストアを管理し、ビジネス戦略を促進します。WebSphere Commerce Accelerator は、WebSphere Commerce がオンライン・ストアを運営するために配布するすべての機能 (ストア管理、商品管理、マーケティング、顧客のオーダー、顧客サービスなど) のための統合ポイントを提供します。

WebSphere Commerce 管理コンソール

サイト管理者またはストア管理者は、管理コンソールを使うことによって、サイトおよびストアの構成に関連したタスクを実行できます。

- ユーザーおよびグループの管理 (アクセス・コントロール)
- パフォーマンス・モニター
- メッセージングの構成
- IBM WebSphere Payment Manager の機能
- Brokat Blaze Rule の管理

WebSphere Commerce 5.4 には、以下の製品がバンドルおよびサポートされています。

IBM Payment Manager 3.1.2

Payment Manager は、SET (Secure Electronic Transaction) や Merchant Originated Payment など、さまざまな方法を使用したマーチャント用リアルタイム・インターネット支払処理を提供します。

WebSphere Application Server 4.0

WebSphere Application Server は、インターネットおよびイントラネット Web アプリケーションを作成、デプロイ、管理するための Java ベースのアプリケーション環境です。

IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.4

IBM WebSphere Commerce Analyzer は、WebSphere Commerce のオプションとしてインストールされる新しい機能です。IBM WebSphere Commerce Analyzer のエントリー版 (WebSphere Commerce 専用) は、顧客プロフィールやキャンペーン・パフォーマンスのモニターのためのレポート機能を提供します。レポートはカスタマイズできません。IBM WebSphere Commerce Analyzer は、Brio Broadcast Server がなければインストールできません。

Brio Broadcast Server

Brio Broadcast Server は、照会の処理およびレポートの配布を自動化するバッチ処理サーバーです。Brio Broadcast Server は大量のデータを大勢の人々に配布することができますが、セキュリティー保護が製品に組み込まれて、管理者はデータベースへのアクセスおよび文書の配布を厳重に制御できます。

Segue SilkPreview 1.0

Segue SilkPreview は、アプリケーション開発の総合的な結果分析とレポートのための情報リポジトリです。

WebSphere Commerce 5.4 Recommendation Engine powered by LikeMinds

Macromedia LikeMinds は、個々の Web 訪問者に対して商品推奨とターゲットを絞った販売促進を行います。これは、共同フィルター操作および市場バスケット分析に基づく、Personalization サーバーです。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の動作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む。) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更 (たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など) は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとしません。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この製品で使用されているクレジット・カードのイメージ、商標、商号は、そのクレジット・カードを利用して支払うことを、それら商標等の所有者によって許可された人のみが、使用することができます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM	@server	iSeries
400	DB2	DB2 Universal Database
WebSphere		

Notes、および Lotus は、Lotus Development Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Action Media、LANDesk、MMX、Pentium および ProShare は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET、SET ロゴ、SET Secure Electronic Transaction および Secure Electronic Transaction は、SET Secure Electronic Transaction LLC の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アンインストール

Payment Manager 87

WebSphere Commerce 87

WebSphere Commerce のコンポーネント 87

インスタンス、WebSphere Commerce

開始と停止 77, 80

作成、複数の Commerce インスタンスの 65

複数の開始 67

複数の作成 65

複数を作成するステップ 66

複数を作成するための前提条件 65

メモリー所要量、複数の作成のため 66

インスタンス・ノード、構成マネージャー 30, 40

インストール

インストール前 3

カセットのインストール 15

コンポーネントの開始および停止 77

前提条件ソフトウェア要件 4

前提条件となるハードウェア要件 3

知識、必要な 3

問題判別用の WebSphere Commerce

ログ・ファイル 93

CyberCash Cassette のインストール 15

SET Cassette のインストール 15

WebSphere Commerce WebSphere

Commerce Business Edition 20

インストール前

仮想ホスト名を使用する複数インスタンスの 65

ソフトウェア要件 4

知識、必要な 3

ハードウェア要件 3

要件 3

Payment Manager 13

インストール・パス (デフォルト) vi

オークション・ノード、構成マネージャー 36, 49

[カ行]

開始

構成マネージャー 27

IBM HTTP Administrator 83

IBM HTTP Server 80

IBM HTTP Server インスタンス 80

Payment Manager 84

Payment Manager Engine 84

Payment Manager ユーザー・インターフェイス 85

WebSphere Application Server 25, 77

WebSphere Commerce インスタンス 37

WebSphere Commerce のコンポーネント 77

拡張構成オプション 61

仮想ホスト名、前提条件 65

仮想ホスト名、複数インスタンスに使用 65

仮想ホスト名、複数インスタンスの開始 67

仮想ホスト名、複数インスタンスを作成するステップ 66

管理コンソール vi

管理用タスク

構成マネージャー・パスワードの変更 7

コンポーネントの開始および停止 77

規則、このマニュアルで使用する v

キャッシュ・ノード、構成マネージャーでの 50

構成、構成マネージャーでのストア・サービス・ノードの 50

構成作業

構成マネージャー・パスワードの変更 7

コンポーネントの開始および停止 77

ビジネス・オプション 61

WebSphere Commerce Suite 23

WebSphere Commerce のインスタンス 27

構成マネージャー

インスタンス・ノード 30, 40

インスタンス・プロパティ・ノード 38

オークション・ノード 36, 49

起動 27

キャッシュ・ノード 50

コンポーネント・ノード 48

作成、インスタンスの 27

構成マネージャー (続き)

ストア・サービス・ノードの構成 50

セッション管理ノード 42

データベース・ノード 30, 38

トランスポート・ノード 51

パスワードの変更 7

メッセージング・ノード 35, 41

メンバー・サブシステム・ノード 40

レジストリー・ノード 48

ログ・システム・ノード 35, 50

Commerce アクセラレーター・ノード 49

Payment Manager ノード 33, 40

Web サーバー・ノード 31, 39

WebSphere ノード 32, 38

構成マネージャーでの Web サーバー・ノード 31

構成マネージャーでのインスタンス・プロパティ・ノード 38

構成マネージャーのユーザー ID の要件 x

構成マネージャー・パスワードの変更 7

コンポーネント・ノード、構成マネージャーでの 48

[サ行]

再インストール、WebSphere Commerce とそのコンポーネントの 87

最新の変更事項 v

削除、WebSphere Commerce インスタンスの 89

作成、複数の Commerce インスタンスの 65

サポートされる Web ブラウザー vii

商品アドバイザー vi

ポート番号、使用される vii

情報

印刷可能な資料 95

概要、このマニュアルの v

規則、このマニュアルで使用する v

最新の変更事項 v

使用、WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの 95

デフォルトのインストール・パス vi

Commerce の Web サイト v

DB2 Universal Database のホーム・ページ 97

IBM HTTP Server のホーム・ページ 96

Payment Manager readme 13

情報 (続き)

Payment Manager のホーム・ページ
96

README v

WebSphere Application Server のホーム・ページ 97

WebSphere Commerce 95

WebSphere Commerce Web サイト 1

WebSphere Commerce のホーム・ページ 95

所定稼働環境 99

セッション管理ノード、構成マネージャー
での 42

[タ行]

データベース

レイアウトの照会 11

データベース・ノード、構成マネージャー
30, 38

停止

IBM HTTP Administrator 83

IBM HTTP Server 80

IBM HTTP Server インスタンス 82

Payment Manager 84, 85

Payment Manager Engine、WebSphere
Application Server の使用 86

WebSphere Application Server 80

WebSphere Commerce インスタンス
37

WebSphere Commerce のコンポーネン
ト 77

デフォルトのインストール・パス vi

トラブルシューティング

WebSphere Commerce ログ・ファイル
93

トランスポート・ノード、構成マネージャー
での 51

[ハ行]

ハードコピー情報 95

複数の WebSphere Commerce インスタ
ンス

仮想ホストの前提条件 65

仮想ホスト名の使用 65

仮想ホスト名を使用して開始 67

仮想ホストを使用して作成するステッ
プ 66

作成 65

メモリー所要量 66

プログラム仕様 99

ポート番号、WebSphere Commerce によ
って使用される vii

[マ行]

まえがき v

マニュアルの概要 v

メッセージング・ノード、構成マネージャ
ー 35, 41

メンバー・サブシステム・ノード、構成マ
ネージャーでの 40

問題判別 93

[ヤ行]

ユーザー ID とパスワード

構成マネージャー 27

構成マネージャーのユーザー ID x

iSeries ユーザー・プロファイル ix

Payment Manager 管理者の役割 xi

要件

インスタンスの構成前 25

構成マネージャーのユーザー ID x

ソフトウェア 4

知識 3

ハードウェア 3

iSeries ユーザー・プロファイル ix

Payment Manager 管理者の役割 xi

[ラ行]

レジストリー・ノード、構成マネージャー
での 48

ログ・システム・ノード、構成マネージャ
ー 35, 50

ログ・ファイル

ログ・システム・ノード、構成マネー
ジャー 50

createdb.log 93

populatedbni.log 93

populatedb.log 93

WASConfig.log 93

wcsconfig.log 93

wcs.log 93

WebSphere Commerce の問題判別での
使用 93

B

BankServACH cassette vii

Blaze Innovator Runtime vi

Blaze Rules Server vi

C

Catalog Manager vi

Commerce Accelerator vi

Commerce アクセラレーター・ノード、構
成マネージャーでの 49

Commerce の Web サイト v

createdb.log 93

CyberCash cassette vii

D

DB2 Universal Database

データベース・ノード、構成マネージ
ャー 30

ポート番号、使用される vii

ホーム・ページ 97

DNS (ドメイン・ネーム・サーバー) 65

I

IBM Developer's Kit, Java Technology
Edition

デフォルトのインストール・パス vi

IBM HTTP Administrator、開始および停止
83

IBM HTTP Server

開始 80

開始と停止 80

停止 82

ポート番号、使用される vii

ホーム・ページ 96

Internet Explorer vii

IP アドレス、複数インスタンスの 65

iSeries

固有の WebSphere Commerce の概念
9

データベースのレイアウトの照会 11

ファイル・システム、さまざまな 9

WebSphere Commerce ファイル編成
9

WebSphere Commerce ファイル・シス
テム 9

iSeries ユーザー・プロファイルの要件 ix

L

LDAP (Lightweight Directory Access
Protocol)

ポート番号、使用される vii

M

Macromedia LikeMinds クライアント vi

N

Netscape Communicator vii
Netscape Navigator vii
nslookup IP コマンド 66

P

Payment Manager
アンインストール 87
インストール 13
インストール前 13
開始と停止 84
カセットのインストール 15
管理者の役割 xi
停止 85
ノード、構成マネージャー 33, 40
ポート番号、使用される vii
ホーム・ページ 96
CyberCash Cassette のインストール 15
Payment Manager Engine の開始 84
Payment Manager ユーザー・インターフェースの開始 85
SET Cassette のインストール 15
WebSphere Application Server を使用する Payment Manager Engine の停止 86
Payment Manager 管理者の役割 xi
Payment Manager ノード、構成マネージャー 33, 40
populatedbnl.log 93
populatedb.log 93

R

README ファイル v

S

SET vii
SSL (Secure Sockets Layer)
実動用に IBM HTTP Server で使用可能にする 63

V

VisaNet cassette vii

W

WASConfig.log 93
wcsconfig.log 93
wcs.log 93

Web サーバー・ノード、構成マネージャーでの 39

Web ブラウザー、サポートされる vii

WebSphere Application Server
開始 25
管理コンソール、WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止 37
デフォルトのインストール・パス vi
ポート番号、使用される vii
ホーム・ページ 97
メッセージング・ノード、構成マネージャー 35, 41
WebSphere ノード、構成マネージャー 32

WebSphere Commerce
アンインストール 87
インストール 20
開始と停止 77, 80
管理用タスク 7
組み込まれている製品 vi
構成 23
構成オプション、拡張 61
構成前 25
コンポーネントのアンインストール 87
コンポーネントの開始および停止 77
再インストール 87
作成と更新、インスタンスの 27
使用、オンライン・ヘルプの 95
情報源 95
デフォルトのインストール・パス vi
入手方法、印刷可能なドキュメンテーションの 95
ファイル・システムおよび編成 9
ルート・ファイル・システム内のデータ 10
QSYS.LIB ファイル・システム内のデータ 9

プログラム仕様と所定稼働環境 99
ポート番号、使用される vii
ホーム・ページ 95

WebSphere Commerce インスタンス
インスタンス・ノード、構成マネージャー 30, 40
オークション・ノード、構成マネージャー 36, 49
開始と停止 37
キャッシュ・ノード、構成マネージャーでの 50
構成前 25
構成マネージャーでの Web サーバー・ノード 31
構成マネージャーでのインスタンス・プロパティ・ノード 38

WebSphere Commerce インスタンス (続き)

構成マネージャーでのストア・サービス・ノードの構成 50
コンポーネント・ノード、構成マネージャーでの 48
削除 89
作成
仮想ホスト名を使用して複数を作成 66
複数の開始 67
メモリー所要量 66
作成ウィザード 30
作成と更新 27
セッション管理ノード、構成マネージャーでの 42
データベース・ノード、構成マネージャー 30, 38
トランスポート・ノード、構成マネージャーでの 51
メッセージング・ノード、構成マネージャー 35, 41
メンバー・サブシステム・ノード、構成マネージャーでの 40
レジストリー・ノード、構成マネージャーでの 48
ログ・システム・ノード、構成マネージャー 35, 50
Commerce アクセラレーター・ノード、構成マネージャーでの 49
Payment Manager ノード、構成マネージャー 33, 40
Web サーバー・ノード、構成マネージャーでの 39
WebSphere ノード、構成マネージャー 32, 38
WebSphere ノード、構成マネージャー 32, 38



Printed in Japan